

各種調査の結果

市民ニーズ調査の結果（速報）・・・・・・・・・・P.1-1～20

各種アンケートの結果・・・・・・・・・・P.2-1～16

グループインタビューの結果・・・・・・・・・・P.3-1～21

市民ニーズ調査の結果（速報）

- 1 調査概要
- 2 回答者の属性
- 3 日立市のまちづくりの取組について
- 4 幸福度・暮らしやすさについて
- 5 自由回答の主な意見について
- 6 まとめ（全体）



1 調査概要

1-1

(1) 調査目的

- ・ 前期基本計画（令和4～8年度）で掲げた各施策の「現在の評価」と「今後の重要度」の把握及び現計画の評価
- ・ 市民が日常生活の中で感じる「暮らしやすさ」や「幸福感」の把握

(2) 調査対象

日立市民 **3,000人**

抽出
条件

- ①住民基本台帳から無作為抽出
- ②満18歳以上（R8.4.1時点）
- ③男女各1,500人

(3) 回答方法及び期間

回答
方法

WEB、又は調査用紙

期間

令和8年5月21日～6月4日

期間
詳細

5月21日 調査票発送
5月29日 礼状兼「調査のお願い」発送
6月4日 回答締切

調査票

あなたの回答が、日立市の未来を創ります。日立市総合計画後継基本計画 策定のためのアンケート調査

このアンケートでは、皆様の日立市への満足度や暮らしの幸福度と、市政の各分野への意向を伺い、今後、どのような取組が必要かを考えたいと考えています。

お寄せいただいたご意見は、今後のまちづくりにかいてまいりますので、アンケート調査へのご協力、よろしくお願いいたします。

令和8年5月 日立市長 小川 泰樹

ご記入にあたってのお願い

- ① この調査は、令和8年4月1日現在、満18歳以上で日立市内にお住まいの方の中から無作為に抽出した3,000人を対象にアンケートをお願いするものです。
- ② アンケートには、**氏名のご本人様**がお答えください（ご本人が回答できない場合は、ご家族の方などがご本人に代わって回答いただいても結構です）。
- ③ この調査は**無記名**であり、個人が特定されることはありません。また、結果は統計的に処理しますので、日頃感じていることを率直にご記入ください。
- ④ 調査の回答は、紙・インターネットの**どちらかご都合の良い方**を選んでお答えください。インターネット回答は、スマートフォン等から短時間で完了し、役場の時間もおさえませんので、ぜひご利用ください。

インターネット（パソコン・スマートフォン等）回答のご案内

右の二次元コードか、URLから回答用のページにアクセスしてください。
(URL) https://questant.jp/q/hitachi_2026

調査に関するご質問、ご意見は、下記にお問い合わせください。

日立市役所 市民公室 総合政策課
電話：0294（22）3111（内線349）／050（5528）5032
FAX：0294（21）1663
E-mail：sousei@city.hitachi.jp

回答期限は 6月4日（木）です

郵送回答の場合は、期限までに投函してください。
インターネット回答の場合は、期限までにご回答ください。

まちづくりの取組に対する「評価」と「重要度」をお聞かせください

図15 あなたは、以下の「日立市のまちづくりの数値」について、どのように評価されますか。また、今後のまちづくりを進めていく上で、どのくらい重要だとお考えですか。項目ごとに、「現在の評価」と「今後の重要度」に5点満点で点数を付け、あてはまる点数を1つずつの○で囲んでください。

記入例

	高	中	低		
現在の評価	5	4	3	2	1
今後の重要度	5	4	3	2	1

「現在の評価」と「今後の重要度」について、それぞれ1つずつ○を付けてください。

5：良い 4：やや良い 3：どちらともいえない 2：やや悪い 1：悪い

5：重要である 4：やや重要である 3：どちらともいえない 2：あまり重要でない 1：重要でない

(1) 福祉・医療

① 子ども福祉

結婚したい男女の出会いを促進し、全ての家庭がその希望に応じて子どもを育てやすくなり、そして子どもが健やかに育つことができる環境の更なる充実を図るため、出会いの場、結婚、出産、子育てに関する各サービスや支援の充実を図ります。

主な取組

- ・ 妊産婦健診、出産・産後ケアの充実
- ・ 子育て支援の充実
- ・ 子育て支援の充実
- ・ 子育て支援の充実

現在の評価

5 4 3 2 1

今後の重要度

5 4 3 2 1

(2) 高齢者福祉

高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域で支え合う体制の強化と高齢者の社会参加の促進を図るとともに、認知症施策の充実や介護予防・健康づくりの推進、介護サービスの質と量の確保に取り組んでいます。

主な取組

- ・ 高齢者・介護者の認知症予防支援（「認知症ケアシステム」）の推進
- ・ 特別養護老人ホーム「南郷園」新築の竣工
- ・ 認知症サポーター養成講座の開催
- ・ 高齢者のITリテラシー支援（タブレット・スマートフォン講座）
- ・ 高齢者の社会参加の促進
- ・ 高齢者向けサービス、高齢者の居場所づくり など

現在の評価

5 4 3 2 1

今後の重要度

5 4 3 2 1

(3) 障害者福祉

障害者が、地域社会の中で安心して生活できるよう、障害者の社会参加の促進を図るとともに、設立した地域生活を支えるサービスの一部の充実に取り組んでいます。

主な取組

- ・ 大田町やきばの生活支援センター
- ・ 障害者就業・生活支援センター（障害者就業・生活支援センター）の設置（令和元年）
- ・ 障害者のITリテラシー支援（タブレット・スマートフォン講座）
- ・ 障害者の社会参加の促進
- ・ 障害者向けサービス、障害者の居場所づくり など

現在の評価

5 4 3 2 1

今後の重要度

5 4 3 2 1

1 調査概要

(4) 回答状況

	令和8年度 (今回)	令和3年度 (前期計画策定時)	令和元年度 (計画中間年)	平成28年度 (前後期計画策定時)
発送数	3,000件	3,000件	3,000件	3,000件
有効回答数	1,580件 (うちWEB 883件)	1,645件 (うちWEB 492件)	1,502件	1,506件
有効回答率	52.6%	54.8%	50.1%	50.2%

(5) 主な調査項目

ア 回答者の属性

(性別、年齢、世帯構成、居住地区等の基本情報など)

イ 日立市のまちづくりの取組

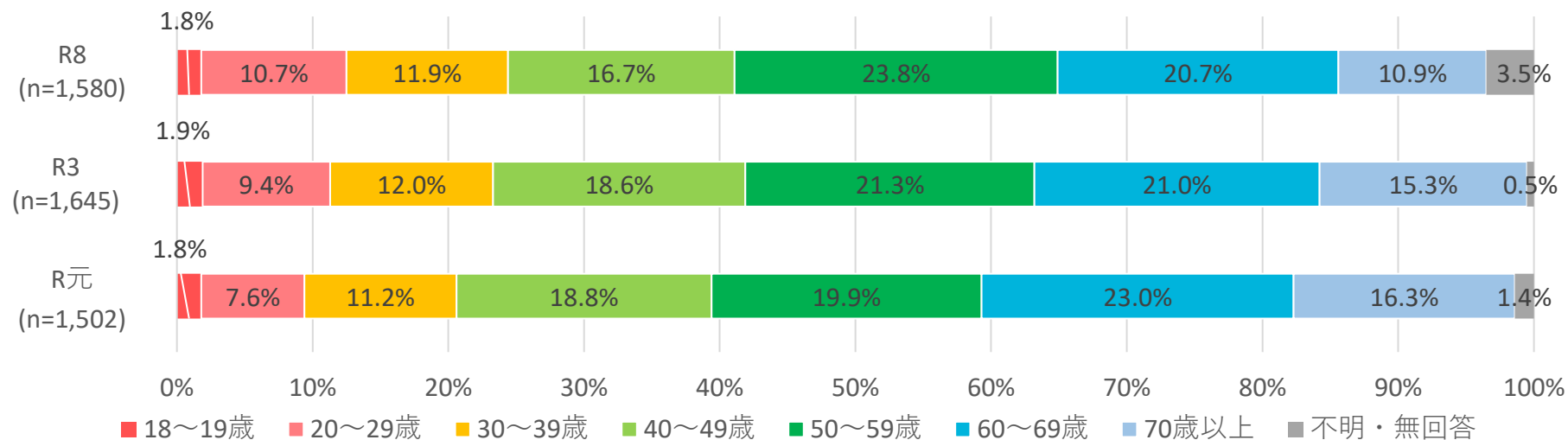
(47項目についての「現在の評価」及び「今後の重要度」)

ウ 心豊かな暮らし（幸福感や暮らしやすさ（生活満足度））について

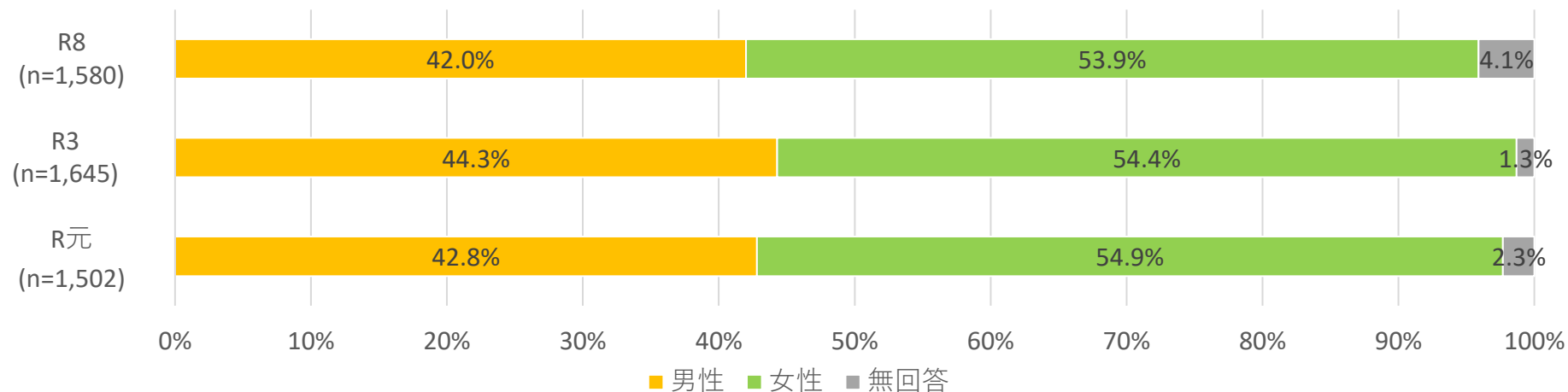
2 回答者の属性

1-3

(1) 年齢



(2) 性別



3 日立市のまちづくりの取組について

(1)現在の評価（アンケート調査の平均点）

- 「日立市のまちづくりの取組」（47施策）について、「現在の評価」「今後の重要度」を5段階で評価（5が高い、1が低い）
- 「現在の評価」について、高評価、低評価となった施策は以下のとおり

評価が高かった上位5施策

	R8調査	前回順位	R3調査	R元調査
1位	学校教育 (3.81点)	1位	学校教育 (3.65点)	消防・救急 (3.58点)
1位	消防・救急 (3.81点)	2位	消防・救急 (3.64点)	上下水道 (3.54点)
3位	ごみ・資源 (3.80点)	9位	上下水道 (3.55点)	防災・減災 (3.40点)
4位	スポーツ (3.74点)	6位	子ども福祉 (3.54点)	墓地・葬祭場 (3.39点)
5位	子ども福祉 (3.64点)	4位	防災・減災 (3.54点)	ごみ・資源 (3.35点)
平均	3.42点 (47施策平均)		3.30点 (45施策平均)	3.11点 (42施策平均)

評価が低かった下位5施策

	R8調査	前回順位	R3調査	R元調査
43位	若者応援 (3.20点)	42位	財政運営 (3.13点)	道路交通 (2.82点)
44位	公共交通体系 (3.19点)	32位	若者支援 (3.13点)	公共交通 (2.79点)
45位	コミュニティ活動 (3.18点)	25位	定住 (3.12点)	農・林業 (2.76点)
46位	定住 (3.17点)	43位	水産業 (3.11点)	市街地整備 (2.70点)
47位	創業・雇用・労働 (3.16点)	前回 なし	道路交通 (3.08点)	商業 (2.47点)

ア 各項目の評価は全体的に改善傾向にある。平均点R8：3.42点（R3：3.30点、H28：3.11点）

イ 令和3年度（前回調査）と比較し、

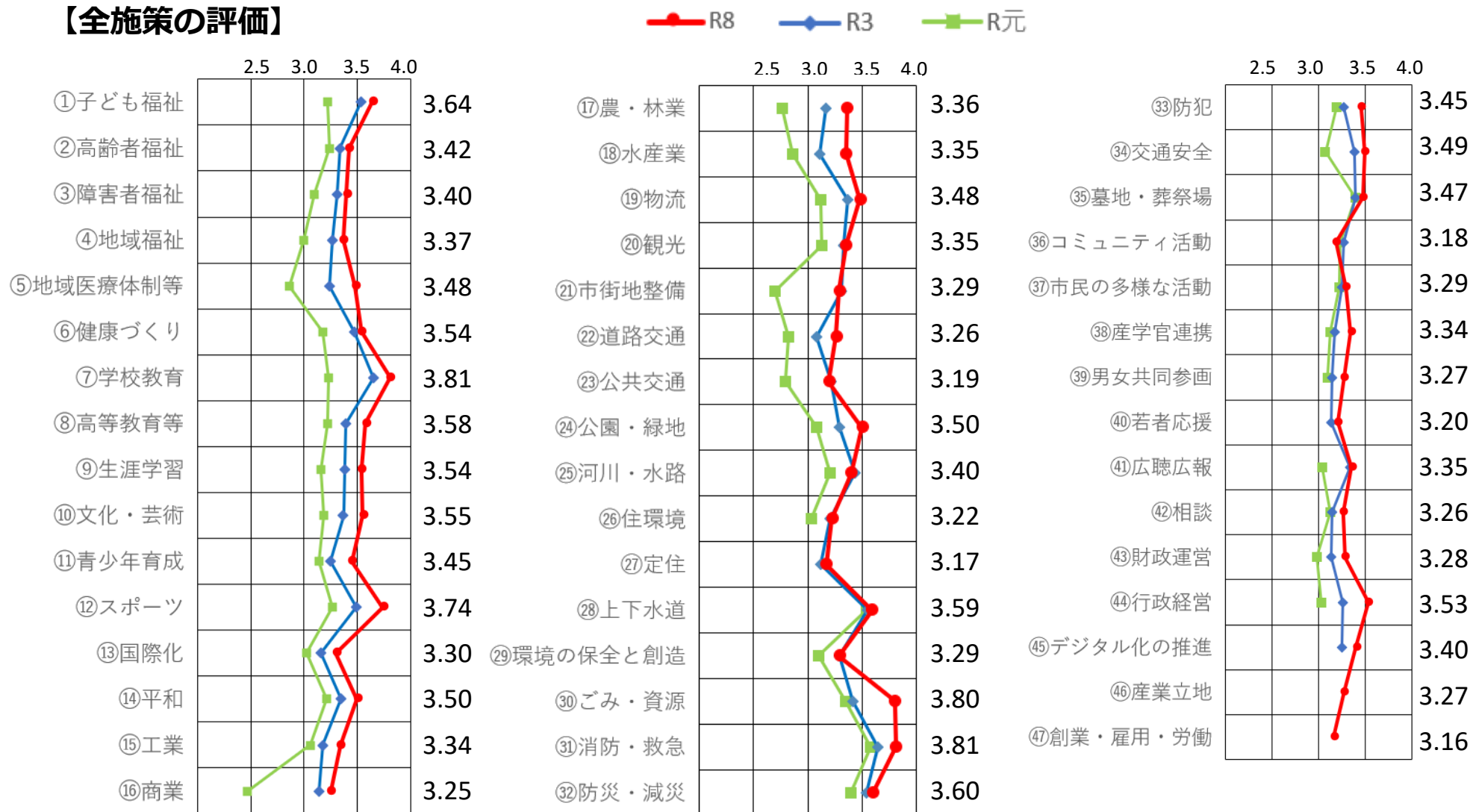
増加幅が大きかったのはごみ・資源（+0.39）、スポーツ（+0.25）

前回から下降したのは4項目（コミュニティ活動（-0.09）、河川・水路（-0.03）（22位）、市街地整備（-0.02）（33位）、公共交通体系（-0.02））

3 日立市のまちづくりの取組について

1-5

【全施策の評価】



3 日立市のまちづくりの取組について

【成果目標の達成状況（大綱1～3）】

◎目標達成：7施策（14.9%）、○評価改善：33施策（70.2%）、△未達成：7施策（14.9%）

	項 目	基準値 【R3】	目標値 【R8】	実績値 【R8】	5年間の 増減	目標との差	目標の 達成状況
		(a)	(b)	(c)	(c - a)	(c - b)	
1 福祉・医療	子ども福祉	3.54	3.6	3.64	0.10	0.04	◎
	高齢者福祉	3.34	3.5	3.42	0.08	▲0.08	○
	障害者福祉	3.31	3.5	3.40	0.09	▲0.10	○
	地域福祉・地域共生	3.27	3.6	3.37	0.10	▲0.23	○
	地域医療体制等	3.24	3.5	3.48	0.24	▲0.02	○
	健康づくり	3.47	3.6	3.54	0.07	▲0.06	○
2 教育・文化	学校教育	3.65	3.8	3.81	0.16	0.01	◎
	高等教育等	3.39	3.6	3.58	0.19	▲0.02	○
	生涯学習	3.38	3.6	3.54	0.16	▲0.06	○
	文化・芸術	3.37	3.6	3.55	0.18	▲0.05	○
	青少年育成	3.25	3.5	3.45	0.20	▲0.05	○
	スポーツ	3.49	3.6	3.74	0.25	0.14	◎
	都市交流・多文化共生	3.16	3.4	3.30	0.14	▲0.10	○
	平和	3.35	3.6	3.50	0.15	▲0.10	○
3 産業	工業	3.18	3.5	3.34	0.16	▲0.16	○
	商業	3.14	3.4	3.25	0.11	▲0.15	○
	農・林業	3.17	3.4	3.36	0.19	▲0.04	○
	水産業	3.11	3.3	3.35	0.24	0.05	◎
	物流	3.37	3.6	3.48	0.11	▲0.12	○
	産業立地	—	3.6	3.27		▲0.33	△
	観光	3.33	3.5	3.35	0.02	▲0.15	○
	創業・雇用・労働	—	3.5	3.16		▲0.34	△

3 日立市のまちづくりの取組について

1-7

【成果目標の達成状況（大綱4～6）】

◎目標達成：7施策（14.9%）、○評価改善：33施策（70.2%）、△未達成：7施策（14.9%）

	項 目	基準値 【R3】	目標値 【R8】	実績値 【R8】	5年間の 増減	目標との差	目標の 達成状況
		(a)	(b)	(c)	(c - a)	(c - b)	
4 都市基盤	市街地整備	3.31	3.5	3.29	▲0.02	▲0.21	△
	道路交通体系	3.08	3.4	3.26	0.18	▲0.14	○
	公共交通体系	3.21	3.5	3.19	▲0.02	▲0.31	△
	公園緑地・さくら	3.29	3.5	3.50	0.21	0.00	○
	河川・水路	3.43	3.5	3.40	▲0.03	▲0.10	△
	住環境	3.20	3.4	3.22	0.02	▲0.18	○
	定住	3.12	－	3.17	0.05	－	○
	上下水道	3.55	3.6	3.59	0.04	▲0.01	○
5 生活環境	自然環境の保全と創造	3.29	3.5	3.29	0.00	▲0.21	△
	ごみ・資源	3.41	3.5	3.80	0.39	0.30	◎
	消防・救急	3.64	3.6	3.81	0.17	0.21	◎
	防災・減災	3.54	3.6	3.60	0.06	0.00	○
	防犯	3.27	3.6	3.45	0.18	▲0.15	○
	交通安全	3.38	3.6	3.49	0.11	▲0.11	○
	墓地・葬祭場	3.39	3.6	3.47	0.08	▲0.13	○
6 協働・行政経営	コミュニティ活動	3.27	3.5	3.18	▲0.09	▲0.32	△
	市民の多様な活動	3.25	3.5	3.29	0.04	▲0.21	○
	産学官連携	3.17	3.4	3.34	0.17	▲0.06	○
	男女共同参画	3.14	3.3	3.27	0.13	▲0.03	○
	若者応援	3.13	3.3	3.20	0.07	▲0.10	○
	広聴広報・シティプロモーション	3.33	3.5	3.35	0.02	▲0.15	○
	相談	3.14	3.3	3.26	0.12	▲0.04	○
	財政運営	3.13	3.3	3.28	0.15	▲0.02	○
	行政経営	3.26	3.5	3.53	0.27	0.03	◎
	デジタル化の推進	3.25	3.6	3.40	0.15	▲0.20	○

3 日立市のまちづくりの取組について

(2) 今後の重要度（アンケート調査の平均点）

- 「日立市のまちづくりの取組」（47施策）について、「現在の評価」「今後の重要度」を5段階で評価（5が高い、1が低い）
- 「今後の重要度」について、高評価、低評価となった施策は以下のとおり

重要度が高かった上位5施策

	R8調査 前回順位	R3調査	R元調査
1位	地域医療体制 など (4.56点) 1位	地域医療体制 など (4.54点)	地域医療体制 など (4.54点)
2位	上下水道 (4.45点) 12位	子ども福祉 (4.48点)	子ども福祉 (4.44点)
3位	子ども福祉 (4.43点) 2位	防災・減災 (4.45点)	高齢者福祉 (4.39点)
4位	学校教育 (4.42点) 6位	高齢者福祉 (4.44点)	商業 (4.36点)
5位	消防救急 (4.40点) 5位	消防・救急 (4.43点)	上下水道 (4.31点)
平均	4.05点 (47施策平均)	4.10点 (45施策平均)	4.01点 (42施策平均)

重要度が低かった下位5施策

	R8調査 前回順位	R3調査	R元調査
43位	文化・芸術 (3.76点) 42位	コミュニティ 活動 (3.83点)	文化・芸術 (3.67点)
44位	男女共同参画 (3.76点) 27位	文化・芸術 (3.79点)	国際化 (3.66点)
45位	国際化 (3.49点) 43位	国際化 (3.78点)	産学官連携 (3.66点)
46位	コミュニティ 活動 (3.48点) 41位	産学官連携 (3.75点)	コミュニティ 活動 (3.63点)
47位	市民の多様な 活動 (3.45点) 45位	市民の多様な 活動 (3.66点)	市民の多様な 活動 (3.59点)

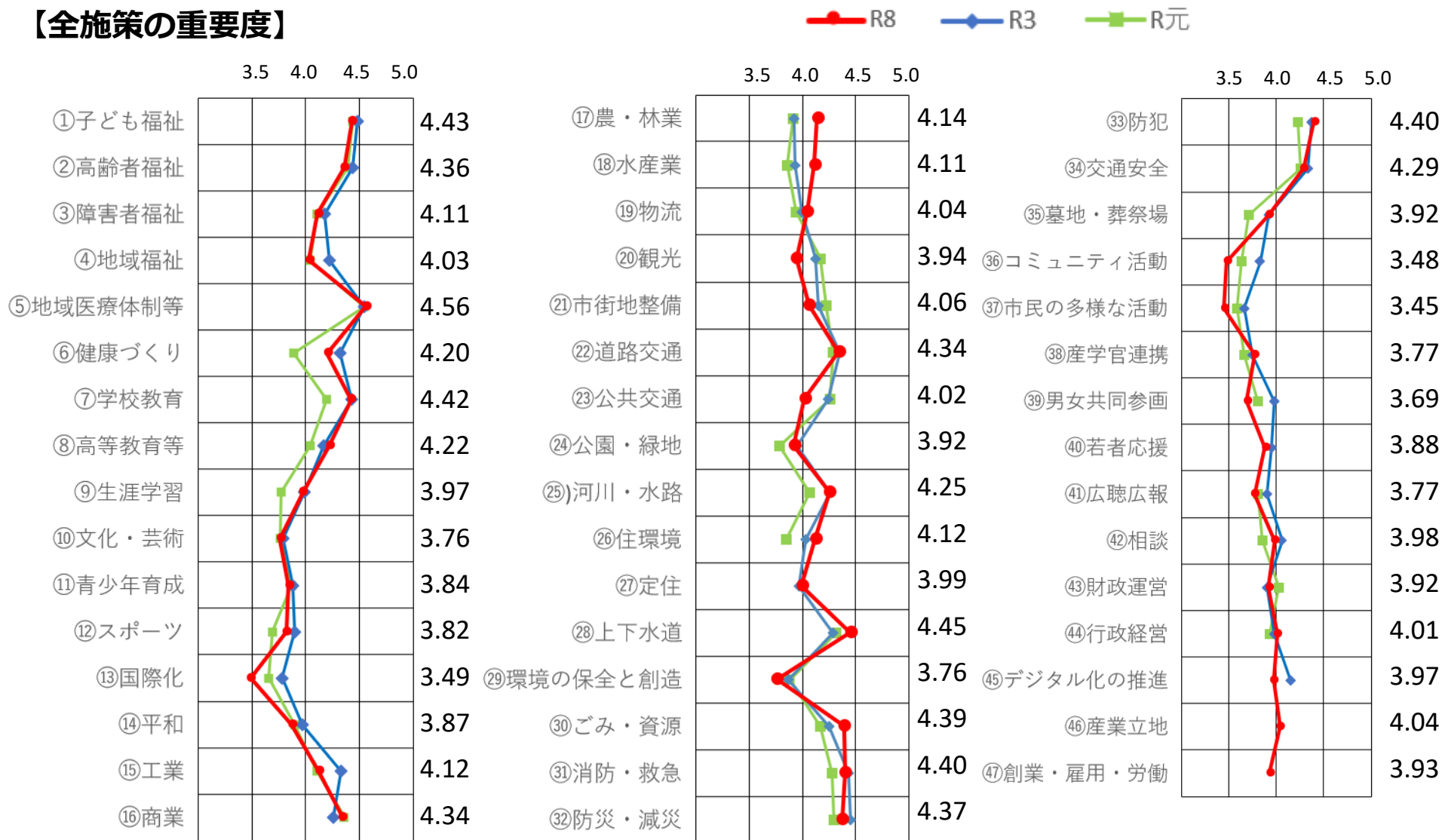
ア 重要度の平均は概ね前回と変わらず。平均点R8：**4.05点**（R3：4.10点、H28：4.01点）

イ 令和3年度（前回調査）と比較し、
増加幅が大きかったのは農・林業（+0.22）（16位）、水産業（+0.18）（19位）
減少幅が大きかったのはコミュニティ活動（-0.35）、男女共同参画（-0.29）

3 日立市のまちづくりの取組について

1-9

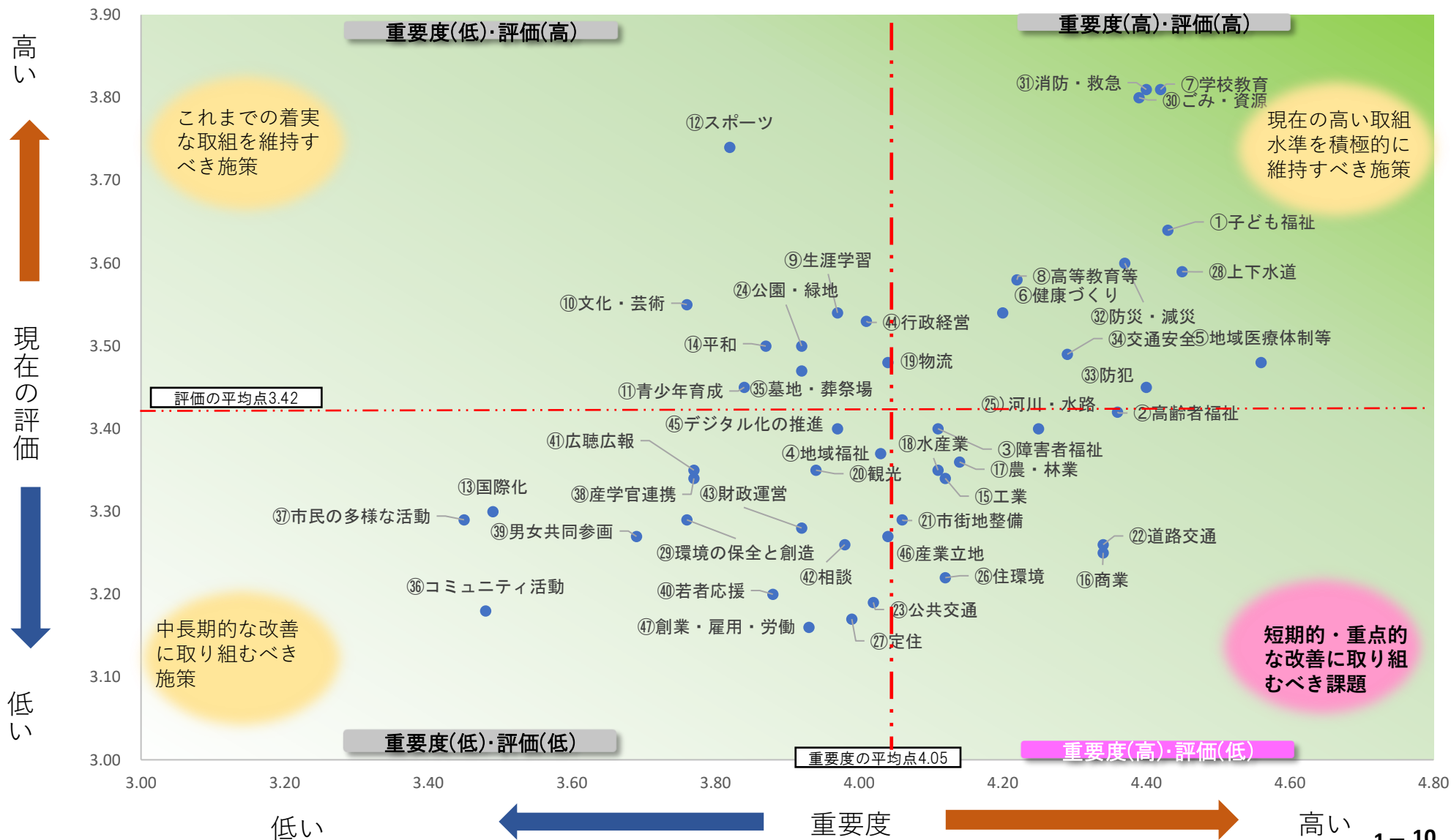
【全施策の重要度】



3 日立市のまちづくりの取組について

【市民ニーズ分析】

ー 現在の評価と今後の重要度の分布図 ー



【市民ニーズ分析】

ー 現在の評価と今後の重要度から大綱別にまとめた市民ニーズ ー

大綱	大綱別にまとめた市民ニーズ	主なキーワード
福祉・医療	・ <u>子ども福祉や健康づくりなどは比較的高い評価を得ており、分野全体として一定の成果が認識されている。</u> ・ 一方、<u>地域医療や地域福祉は重要度が高く、市民の期待も大きい。</u>	地域医療、地域福祉、高齢化への対応
教育・文化	・ <u>学校教育や生涯学習などは概ね良好な評価で推移している。</u> ・ 教育環境の充実に加え、<u>地域活動や人材育成への期待も見られる。</u>	学校教育、生涯学習、地域活動
産 業	・ 前回調査から評価は改善しているものの、<u>商業、雇用、地域経済の活性化などへの期待は依然として高い。</u>	商業、雇用、観光、産業振興
都市基盤	・ 道路や上下水道への評価が比較的高いほか、<u>公共交通や市街地整備など暮らしを支える都市機能への関心が高い。</u>	公共交通、市街地整備、道路交通
生活環境	・ <u>防災、防犯、消防・救急など安全・安心に関する施策は高い評価を得ており、市民生活を支える基盤として定着している。</u>	防災、安全・安心、環境保全
行政経営	・ <u>行政経営全般の評価は改善傾向にあるものの、市民との情報共有や行政サービスへの期待は継続している。</u>	広報広聴、行政サービス、行政経営

3 日立市のまちづくりの取組について

(3)まとめ

- ア **市民生活を支える基盤的施策については評価が高い傾向**が見られた。
- イ 代表的な施策は、学校教育、消防・救急、ごみ・資源、防災・減災、上下水道、子ども福祉。
- ウ これらは、市民の日常生活に密接に関わる施策であり、**行政サービスを安定して提供していることが、市民の高い評価**につながっているものと考えられる。
- エ 特に、防災・減災、消防・救急、上下水道など安全・安心に関わる施策は、近年の自然災害の激甚化などを背景に重要度も非常に高く、本市の都市としての信頼性を支える基盤となっている。
- オ また、**学校教育や子ども福祉への高い評価は、本市がこれまで取り組んできた人づくり施策が一定の成果を上げている**ことを示している。
- カ 一方、**商業、公共交通、定住、若者応援、創業・雇用・労働、住環境、道路交通体系などは、重要度が高い一方、評価は相対的に低い結果**となっている。
- キ 評価・重要度がともに高い、学校教育や子ども福祉、消防・救急などの**生活基盤、安全・安心に関わる分野**は、これまでの取組を継続していく必要があり、**引き続き重点的に取り組む必要**がある。
- ク 評価が低く重要度が高い、**公共交通体系や定住、創業・雇用・労働**、同様の傾向がみられる**道路交通体系や若者応援は、短期的・重点的な改善が必要**である。

(1) 結果概要

国が定めた地域幸福度（Well-Being）指標アンケート設問票に基づき、今回の調査では、「現在の幸福度」や「5年後の幸福度」を始めとする「幸福度」や「暮らしやすさ」などの項目について、10段階での評価を行い、市民が日常生活において、どのように感じているかを調査した。

項目	調査結果	【参考】デジタル庁調査（2025年度）	
		茨城県平均	全国平均
問 1 9：現在の幸福度 （現在、どのくらい幸せだと思うか）	6.7	6.3	6.4
問 2 0：5年前の幸福度 （5年前にどのくらい幸せだと思っていたか）	6.5	—	—
問 2 1：5年後の幸福度 （5年後にどのくらい幸せだと思うか）	6.4	6.1	6.3
問 2 2：生活満足度（地域の暮らしにどの程度満足しているか）	6.0	6.3	6.7
問 2 3：町内の幸福度（町内（集落）の人々はどの程度幸せか）	5.8	6.1	6.3

ア **市民の幸福度**は、国・県と比較しても**高い傾向にあるが**、5年後の幸福度が現在の幸福度よりも低くなっていることから、**将来に対する不安や課題意識も併せて持っている**ことが読み取れる。

イ 一方で、生活満足度及び町内満足度は全国・県平均を下回っており、公共交通、地域活力など日常生活を支える地域環境への改善ニーズが存在すると考えられる。

4 幸福度・暮らしやすさについて

(2)結果一覧

国が定めた地域幸福度（Well-Being）指標アンケート設問票に基づき、今回の調査では、「現在の幸福度」や「5年後の幸福度」を始めとする「幸福度」や「暮らしやすさ」などの項目について、10段階での評価を行い、市民が日常生活において、どのように感じているかを調査した。

分野	項目	調査結果	分野	項目	調査結果
地域の人間関係	町内の住人を信頼している	6.6	自分らしい生き方	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	8.0
	地域活動への市民参加が盛んである	5.6		私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある	5.6
	困ったときに相談できる人が身近にいる	5.7		地域では、やりたい仕事を見つけやすい	4.6
	町内の人困っていたら手助けをする	7.0		地域では、適切な収入を得るための機会がある	4.9
	町内に対して愛着を持っている	6.5		地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	4.8
	どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	5.5	生活環境	市役所の手続や相談は、全体的に利用しやすい	6.5
	見知らぬ他者であっても信頼する	4.2		今後、行政手続のオンライン化がさらに進むことを期待する	7.2
	町内の人自分が自分をどう思っているかが気になる	4.6		企業、大学などと連携した新しいまちづくりの取組に期待する	7.4
	地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	5.3		新しい技術などをいかした先進的なまちづくりに取り組んでいると感じる	6.2
	地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	4.7		新しい技術や発想をいかした先進的なまちづくりに期待する	7.6
自分らしい生き方	自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい 気持ちでいると思う	5.7	市独自	安心して暮らすことができる	7.0
	自分のことを好ましく感じる	6.3		まちに活気があると感じる	4.7
	身体的に健康な状態である	7.3		住みやすいまちだと感じる	6.9
	精神的に健康な状態である	7.3		これからもこのまちに住み続けたい	7.4
	地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	5.3			

(3)まとめ

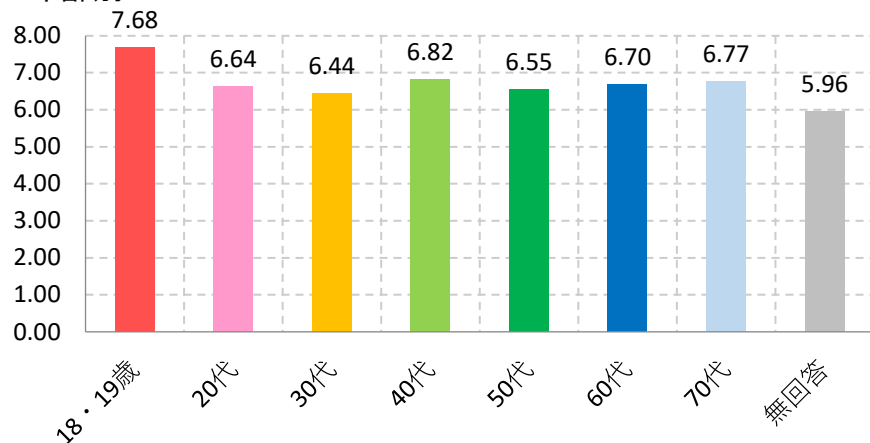
- ア **現在の幸福度は、全国及び茨城県平均を上回っており**、市民は家族や健康、自然環境などを背景として、**個人の暮らしに一定の充実感を感じている**ことがうかがえる。一方で、**生活満足度及び町内満足度は全国・県平均を下回っており**、公共交通、地域活力など**日常生活を支える地域環境への改善ニーズが存在する**と考えられる。
- イ 全体的な傾向としては、環境や文化を後世に継承しながら、住み続けたいと考えているとともに、**先進的なまちづくりや産学官民連携に期待**を抱いている。一方で、**まちの活気や若者が活躍しやすい雰囲気、雇用に関しては物足りなさ**を感じている。
- ウ このことから、本市においては、市民一人ひとりの幸福感を維持・向上させるとともに、**生活基盤や地域環境の充実を図ることで、幸福度と生活満足度の双方を高めるまちづくり**を推進することが重要だと考えられる。

4 幸福度・暮らしやすさについて

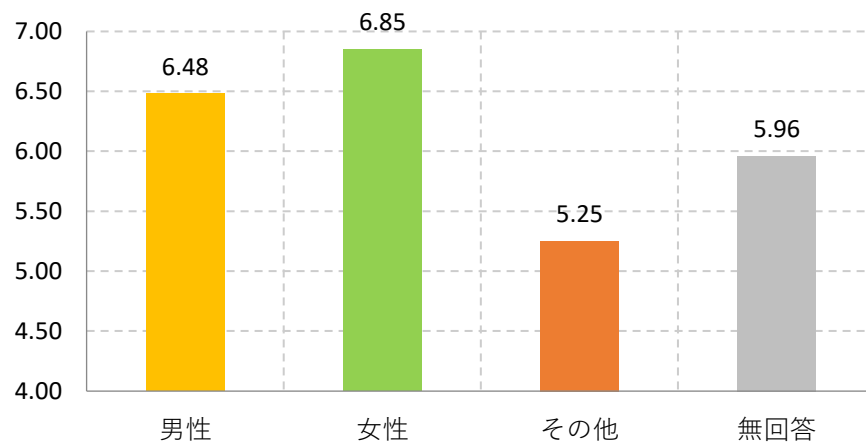
(4)参考【クロス集計】①

- 幸福度（幸福感）に関する設問に対する年齢階級別・男女別のクロス集計結果は以下のとおり
- 問19 現在、あなたはどの程度幸せですか。

年齢別

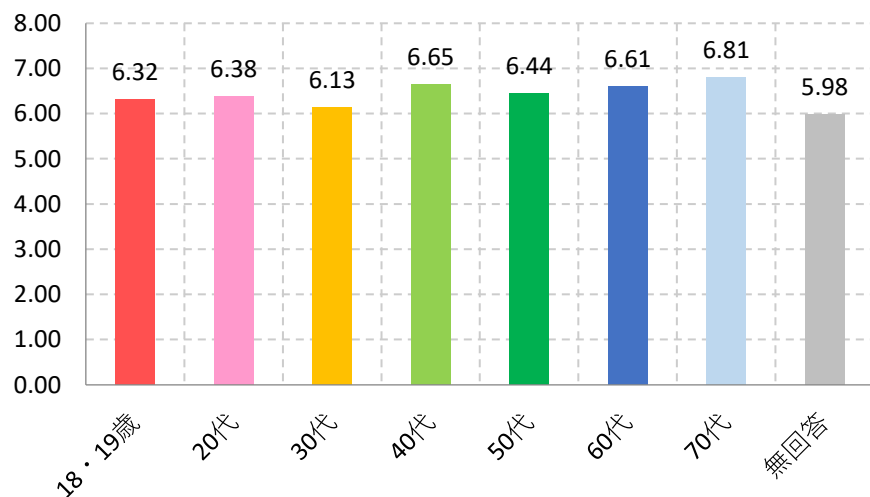


性別

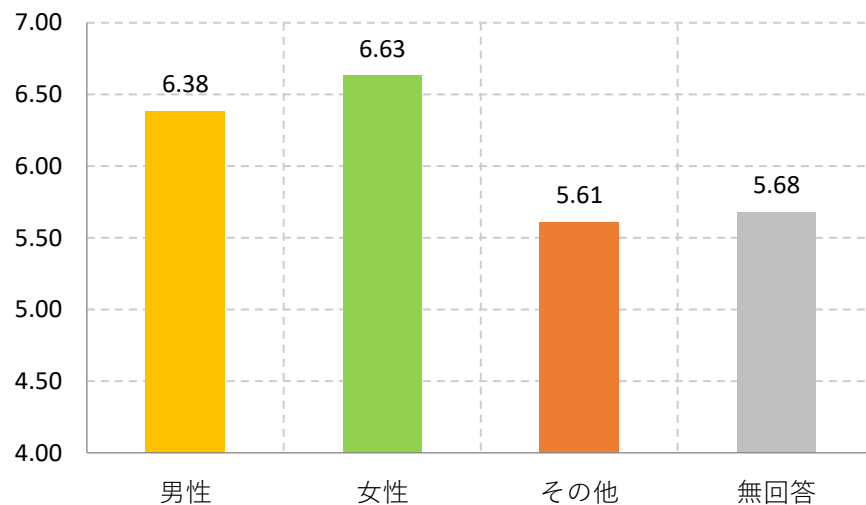


- 問20 今から5年前、あなたはどの程度幸せでしたか。

年齢別



性別



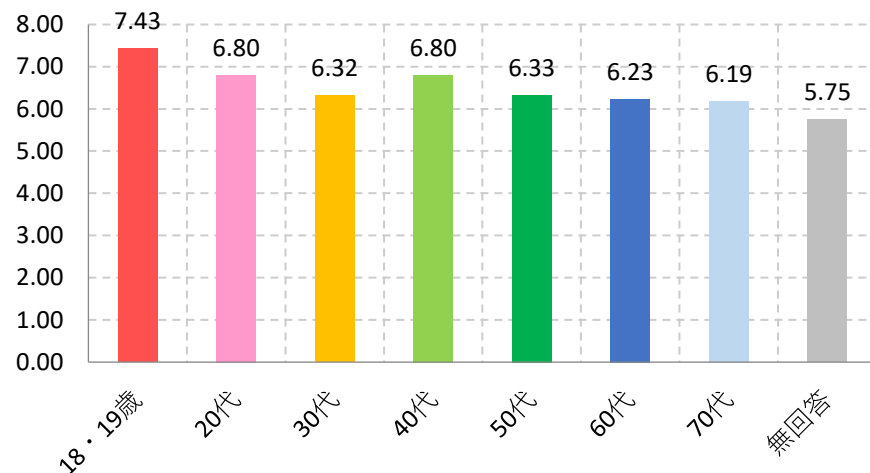
4 幸福度・暮らしやすさについて

1-17

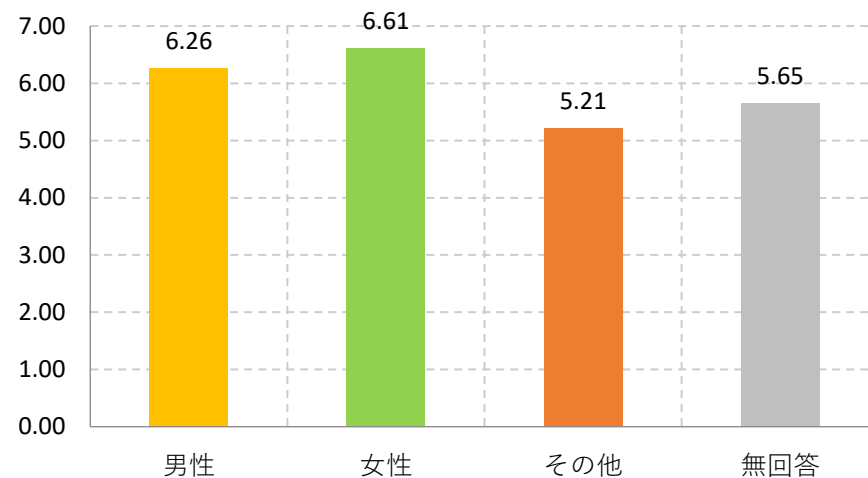
(4)参考【クロス集計】②

➤ 問21 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。

年齢別

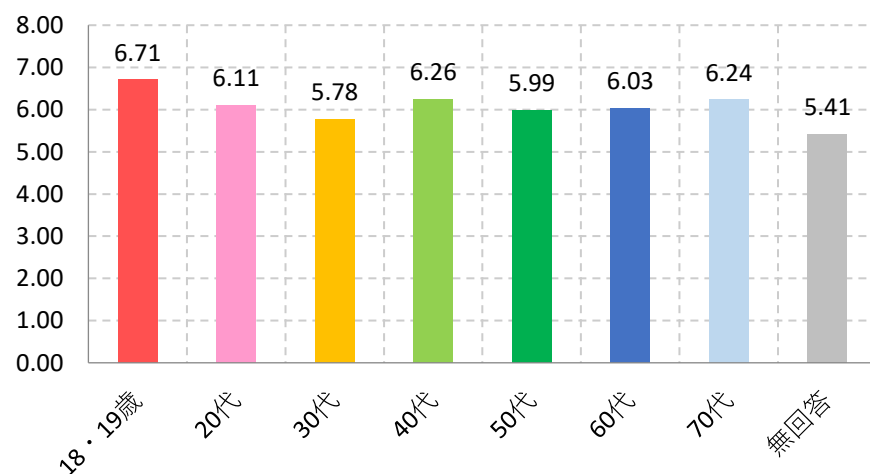


性別

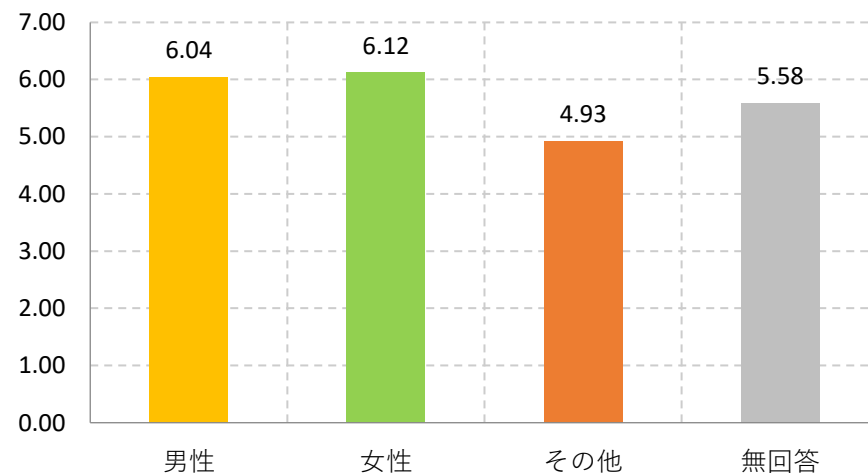


➤ 問22 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。

年齢別



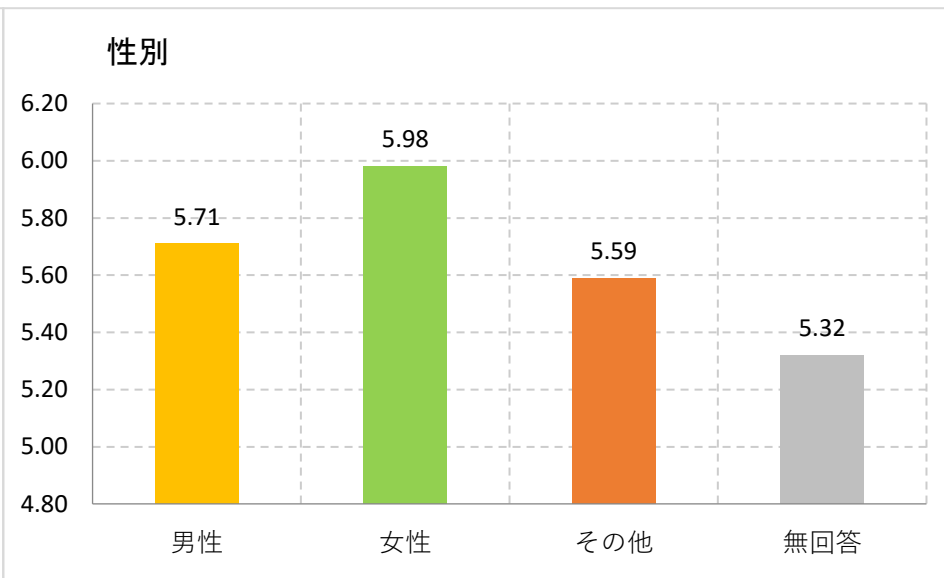
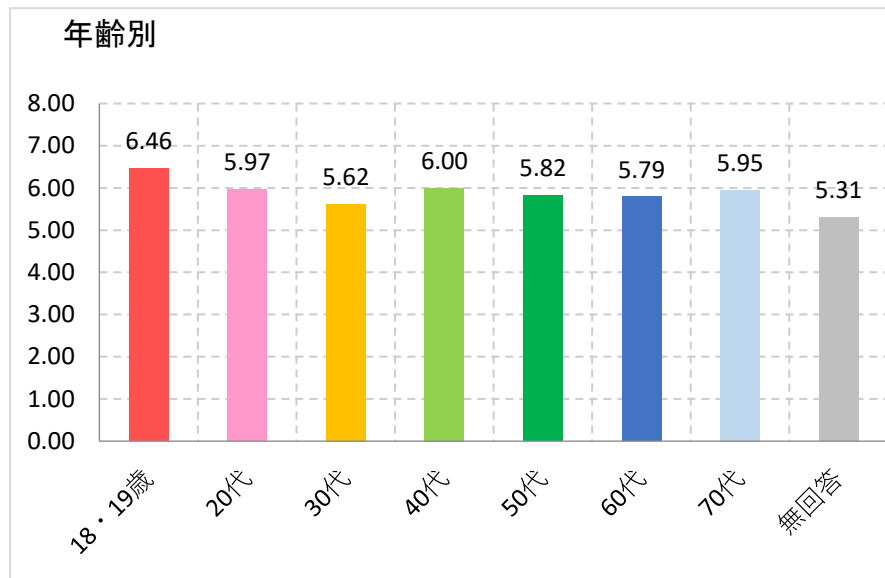
性別



4 幸福度・暮らしやすさについて

(4)参考【クロス集計】③

➤ 問23 あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。



(1) 全体の傾向

- ア 日立市の暮らしやすさや自然環境、子育て支援など既存の生活基盤（安全・安心）を評価する声がある。
- イ 一方で、人口減少・高齢化を背景に、公共交通、買い物、医療、市街地のにぎわい、地域コミュニティの維持に対する不安が分野を越えて表れている。
- ウ 市民の意見は個別施策への要望にとどまらず、「このままでは住み続けにくくなる」「若い世代が戻りにくい」「高齢期の生活が不安」という将来像への危機感として整理できる。件数以上に重要なのは、交通、商業、医療、住宅、子育て、雇用が相互に結び付いており、単独分野での改善では市民実感につながりにくいと考えられる点である。

(2) 主な意見

ア 生活基盤の充実を重視する意見が多い

道路や公共交通、医療、買い物環境、公園など、市民生活を支える基盤に関する意見が多く見られた。

特に高齢者からは、公共交通の利便性、買い物環境、医療体制に関する意見が多く、人口減少・高齢化社会への対応が重要な課題となっている。

イ 人口減少への危機感

若者の流出や出生数減少に対する危機感が多く、自由回答に表れている。

特に、働く場所、若者が住み続けられる環境、子育て支援、教育環境を一体的に進めるべきという意見が目立った。人口減少は一つの施策でなく、産業、教育、都市基盤、福祉など複数分野にまたがる課題として認識されている。

ウ 「量」より「質」を求める意見

新しい施設整備よりも、今ある施設を大切に使うこと、維持管理、市民サービスの質を求める意見が多く見られた。公園管理、道路補修、公共交通、文化施設など、既存ストックの有効活用を望む声が多いことが特徴である。

エ 行政への期待

行政に対しては、情報発信、窓口対応、財政の優先順位、新しいまちづくりや持続可能な行政経営を望む意見が多く寄せられた。また、デジタル化の推進を期待する一方、高齢者への配慮も求められている。

6 まとめ（全体）

- (1) 今回の市民ニーズ調査では、人口減少・少子高齢化の進行を背景として、**市民が日常生活基盤の維持・向上に強い関心**を持っていることが明らかとなった。
- (2) 道路や公共交通、買い物環境、医療、子育て、教育など、暮らしを支える基盤へのニーズが高く、自由回答からも**「安心して暮らし続けられるまち」を望む声**が数多く寄せられた。
- (3) 一方で、市民は新たな施策や大型事業よりも、既存サービスの充実、維持管理、**新たな技術などを活かした行政サービスの質の向上**を重視しており、**人口減少社会に対応した持続可能まちづくり**を求めていることが読み取れる。
- (4) また、重要度・満足度分析と自由回答の結果は概ね一致しており、市民ニーズは**「人口減少への対応」「持続可能な行政経営の実現」「新たな技術の活用と先進的なまちづくり」「暮らしやすさ・幸福を実感できる施策の展開」**の4つの項目に分類することができる。

各種アンケートの結果

- 1 広報ひたち等アンケート（クロス集計）
- 2 各種団体アンケート
- 3 ひたちファンクラブアンケート

1 広報ひたち等アンケートについて（クロス集計）

(1) 調査概要 ※再掲

ア 調査期間	広報ひたち2月号掲載 ～ 令和8年2月20日（金）		
イ 調査内容	まちづくりに対する意見・提案		
ウ 回答数	・ 広報ひたち	166件	
	・ 市公式LINE・ホームページ	158件	合計 324件

- Q1. 住所：日立市 町
- Q2. 性別： 男 ・ 女 ・ 回答しない
- Q3. 年代：
10代/20代/30代/40代/50代/60代/70代以上
- Q4. 今後5年、日立市に住み続けたいですか（1つ選択）
（住み続けたい/できれば住み続けたい
どちらともいえない/できれば転出したい/転出したい）
- Q5. 日立市に愛着がありますか（1つ選択）
（ある/ややある/どちらともいえない/あまりない/ない）
- 【自由記載】
今後日立市が取り組むべき具体的な内容・アイデア

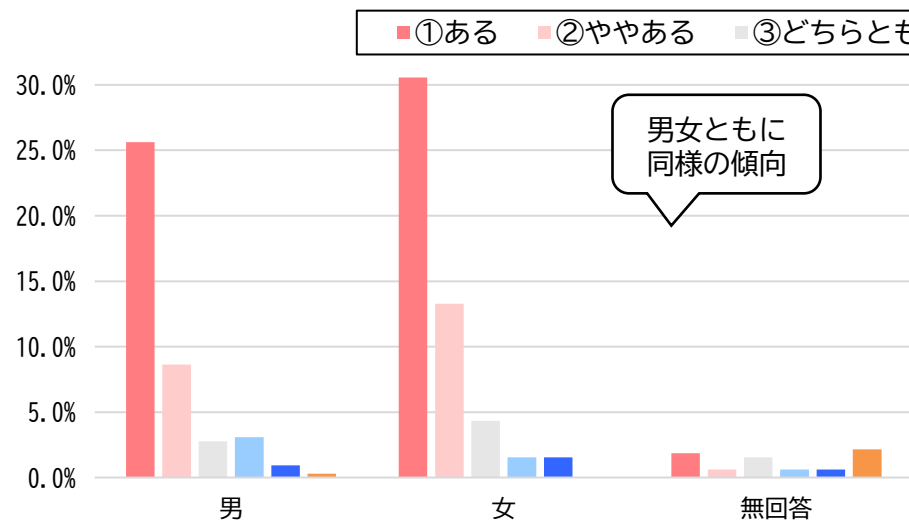
（設問）

（市報）

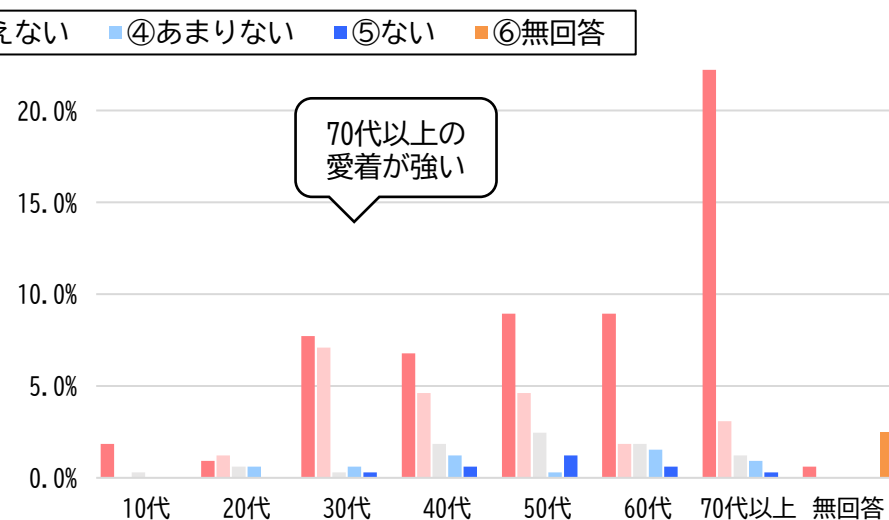
（市公式LINE）

1 広報ひたち等アンケートについて（クロス集計）

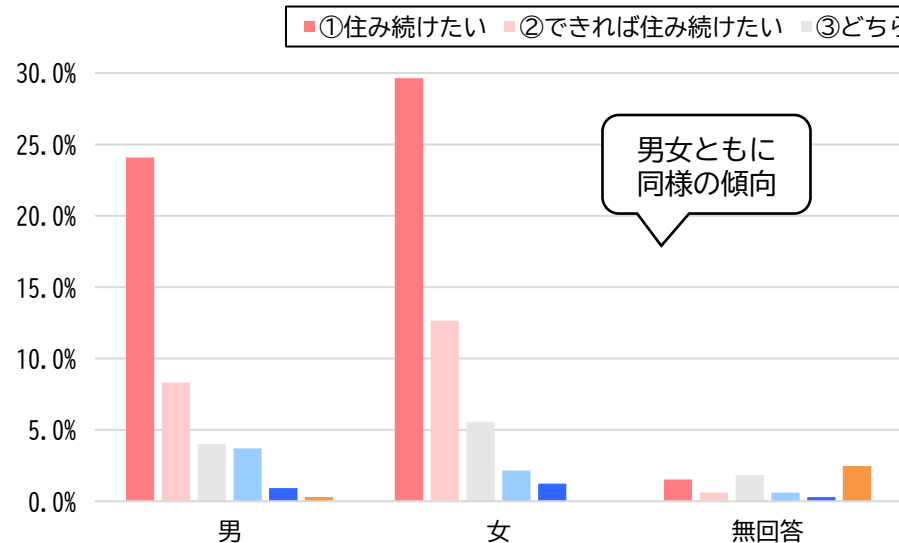
① 市への愛着 × 【性別】



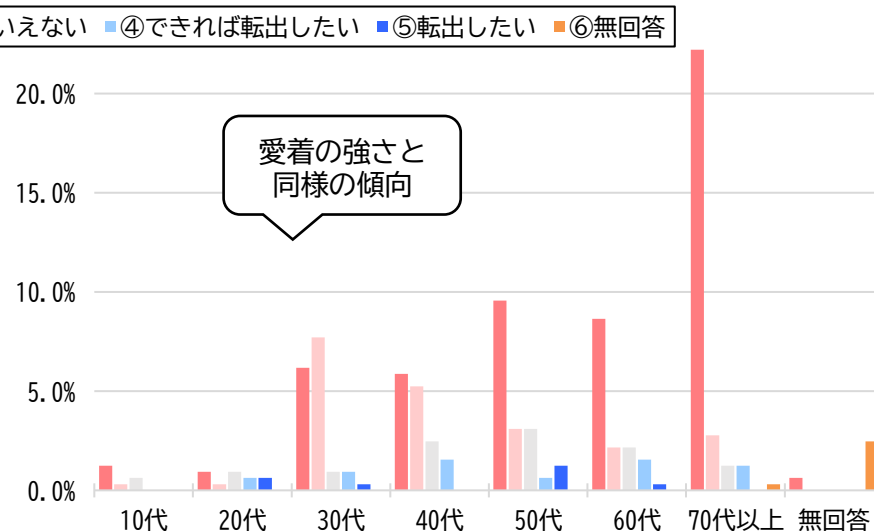
② 市への愛着 × 【年代別】



③ 居住意向 × 【性別】

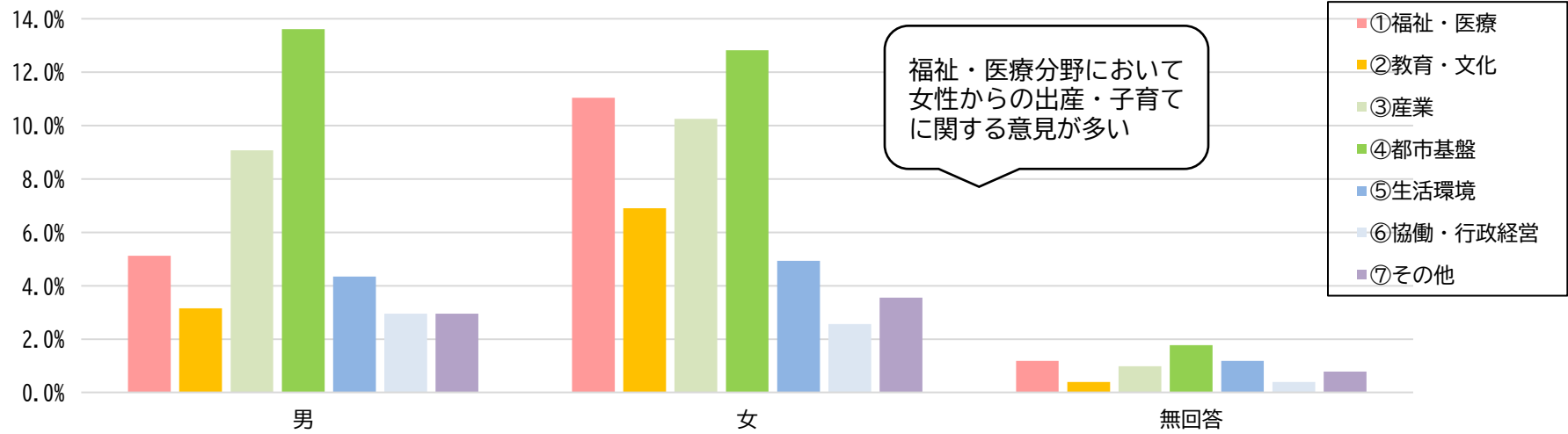


④ 居住意向 × 【年代別】

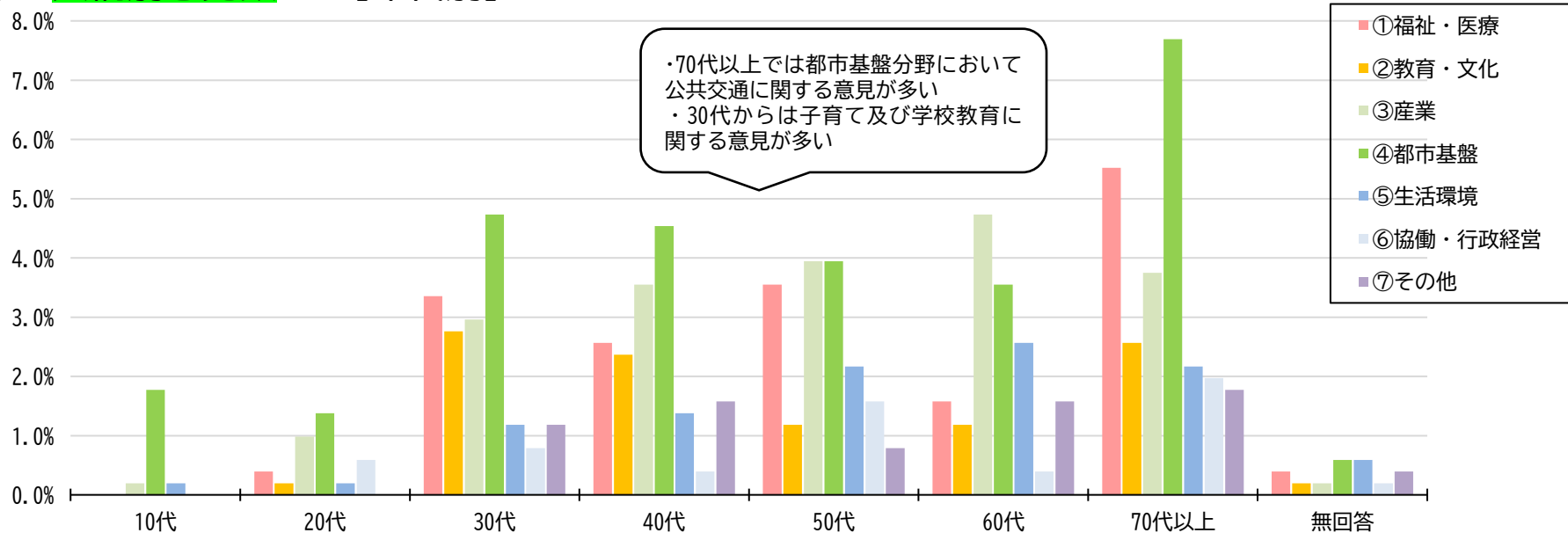


1 広報ひたち等アンケートについて（クロス集計）

⑤ 大綱別意見数 × 【性別】



⑥ 大綱別意見数 × 【年代別】



2 各種団体アンケートについて

(1) 調査概要

- ア 対象団体 各分野における市内関係団体
(福祉・医療、教育・文化、産業、都市基盤、生活環境、協働など 全60団体)
- イ 調査期間 令和8年4月22日(水)～5月13日(水)
- ウ 調査内容
- ・各活動分野における課題
 - ・特に重要な課題と改善に向けた取組
 - ・継続的な活動に向けた取組
 - ・市に対する意見・提案
- エ 回答数 54団体

【対象団体】

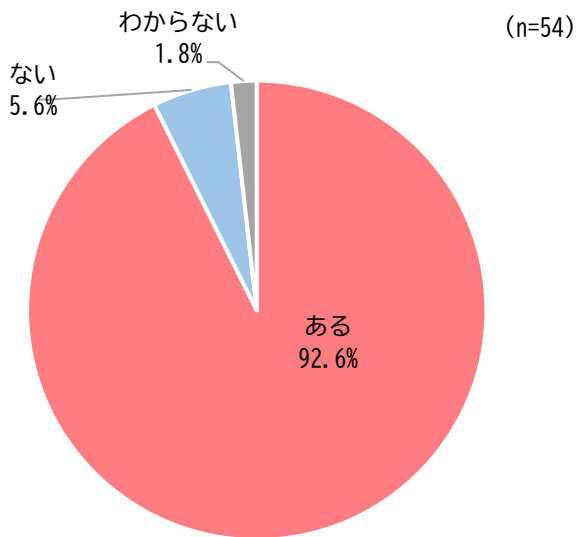
分野	団体数	主な団体名(順不同)
福祉・医療	10	・ 日立市視覚障害者協会 ・ 日立市手をつなぐ親の会 ・ (福)日立市社会福祉協議会
教育・文化	6	・ 日立市立小・中学校PTA連合会 ・ NPO法人日立理科クラブ ・ 国際交流ボランティアネットワークさくら
産業	32	・ 日立商工会議所青年部 ・ 日立製作所工業協同組合 ・ 常陸農業協同組合(十王資材センター・みなみ資材センター)

分野	団体数	主な団体名(順不同)
都市基盤	5	・ 日立市建設業協会 ・ NPO法人助け合いなかさと ・ NPO法人ふれあい坂下
生活環境	4	・ 久慈川菜の花エコネットワーク推進会 ・ 日立市消防団 ・ 女性防火クラブ連絡協議会
協働	3	・ みねこクラブ ・ 日立女性フォーラム ・ ひたち若者ががやき会議

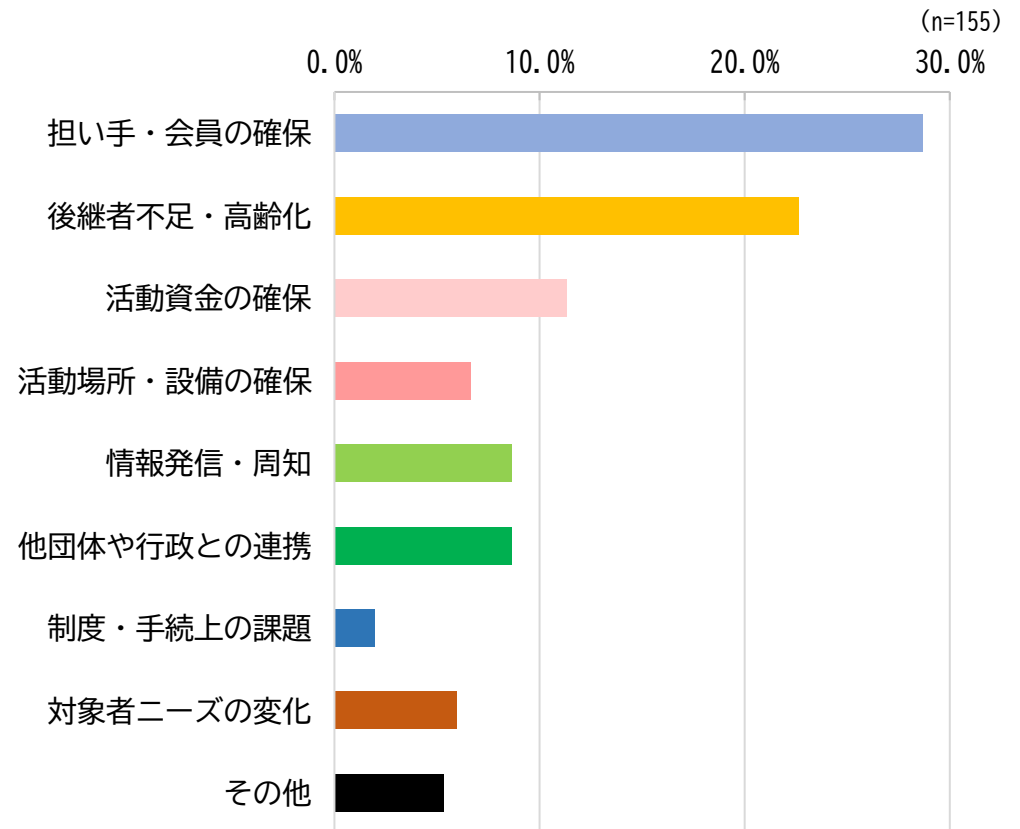
2 各種団体アンケートについて

(2) 回答結果（課題の有無・内容）

（課題の有無）



（課題の内容）※複数回答



人材確保・高齢化が主な課題となっている。

2 各種団体アンケートについて

(2) 回答結果（特に重要な課題・取組）

分野	特に重要な課題	現在の取組	今後必要となる取組
ア 担い手・会員の確保 後継者不足・高齢化	会員減少、若年層不足、後継者不足による活動人材確保の困難	募集活動、広報、若者向け事業、交流機会の創出	若年層・新規参加者が関わりやすい仕組みづくり、次世代人材育成
	役員、事業運営者、ボランティア不足による運営負担の増加	役割分担見直し、外部人材活用、業務整理	持続可能な運営体制づくり、負担軽減策の充実
	会員・役員の高齢化、事業承継の困難	事業整理、負担軽減、後継者育成	交流人口拡大、地域の魅力向上による担い手確保
イ 他団体・行政との連携	行政、企業、大学、地域団体等との連携不足	意見交換、相談対応、団体間連携	継続的な協議体制、人材・ノウハウを補完する連携強化
	制度や支援窓口の分かりにくさ、実情との乖離	個別相談、要望把握	柔軟な制度運用、相談体制の充実
ウ 活動資金の確保	会費等の減少、物価高騰、維持管理費増加による財源不足	収益確保策、事業見直し、費用削減	安定的な財源確保、補助制度・運営支援の充実
	イベント、広報、研修等の活動経費不足	事業内容の精査、効率化	地域活動継続への財政支援
エ 制度・運営の見直し	事務局機能や引継ぎ体制維持の困難	業務整理、事務改善、運営見直し	事務局機能強化、DX活用、研修支援
	地域ニーズと活動内容の不一致	事業改善、内容再編	ニーズに応じた活動方法の見直し
オ その他	活動拠点、空き店舗、交通、買い物等の地域基盤不足	既存施設活用、地域資源活用	活動場所確保、生活基盤整備への支援

2 各種団体アンケートについて

(2) 回答結果（団体の発展、継続に必要な支援など）

（団体の発展、継続に必要な支援・条件）

分野	支援・条件	分野	支援・条件
ア 担い手・人材確保	会員、役員、ボランティア等の確保、若い世代への継承	運営体制	役員・事務局への負担集中を防ぐ運営体制の構築
	後継者・専門人材育成、学校・企業等との連携		事務局機能強化、引継ぎ体制整備、DX活用
	参加機会の創出、団体活動に関する情報発信強化	活動環境・基盤整備	空き店舗、活動拠点、施設等の確保・活用
イ 他団体・行政との連携	行政、企業、大学、地域団体等との連携強化		交通、買い物、交流等の地域基盤充実
	課題共有、継続的な相談・協議体制の構築	地域活性化	地域資源活用、観光振興、交流人口拡大、新産業創出
	支援制度の分かりやすい情報提供、相談窓口の充実	制度・仕組み	団体規模や実情に応じた柔軟な制度運用、支援方法の見直し
ウ 財政支援	補助金・助成制度等による継続的な財政支援 物価高騰、人件費増加、施設維持費等への対応支援 イベント、広報、研修等の活動経費確保		

（市政に対する意見・提案）

分野	主な意見
ア 活動への支援	・ 補助金や助成金の継続・拡充、設備更新や施設維持に対する支援が求められている。 ・ 後継人材の確保、活動拠点や福祉資源整備など、団体活動の基盤強化への支援が必要である。
イ 活動の周知広報	・ 市報、ホームページ、SNS等を活用し、団体活動や地域資源の魅力を広く発信してほしい。 ・ 各団体の役割や取組が見える化し、市民理解や参加促進につなげる必要がある。
ウ 意見交換の機会創出	・ 行政と団体が継続的に協議し、現場の課題や制度運用を共有できる場が必要である。 ・ 担当窓口の継続性を確保し、課題解決が途切れない連携体制を構築してほしい。
エ 人口減少対策	・ 広域連携や官民連携を進め、若者・子育て世代・現場の声を市政に反映する仕組みが求められている。 ・ 若い世代の定住促進に向け、働く場の確保、企業誘致、子育て支援の充実が必要である。 ・ 観光振興、空き家・空き店舗活用、交通環境の改善などにより、交流人口の拡大とまちのにぎわい創出を図る必要がある。

2 各種団体アンケートについて

(3) まとめ

ア 団体が抱える課題

最重要課題は「担い手・会員の確保」と「後継者不足・高齢化」であり、分野横断的な共通課題となっている。

イ 団体の持続可能性

人材不足に加えて、人口減少や利用者減少、物価高騰、運営費負担、設備老朽化などが複合的に重なり、団体運営上の負担となっている。

ウ 発展・継続に必要な支援

補助金等の財政支援に加え、情報発信支援、継続的な協議の場、関係機関調整、制度・組織運営の見直しなど、伴走型支援を求める声が多い。

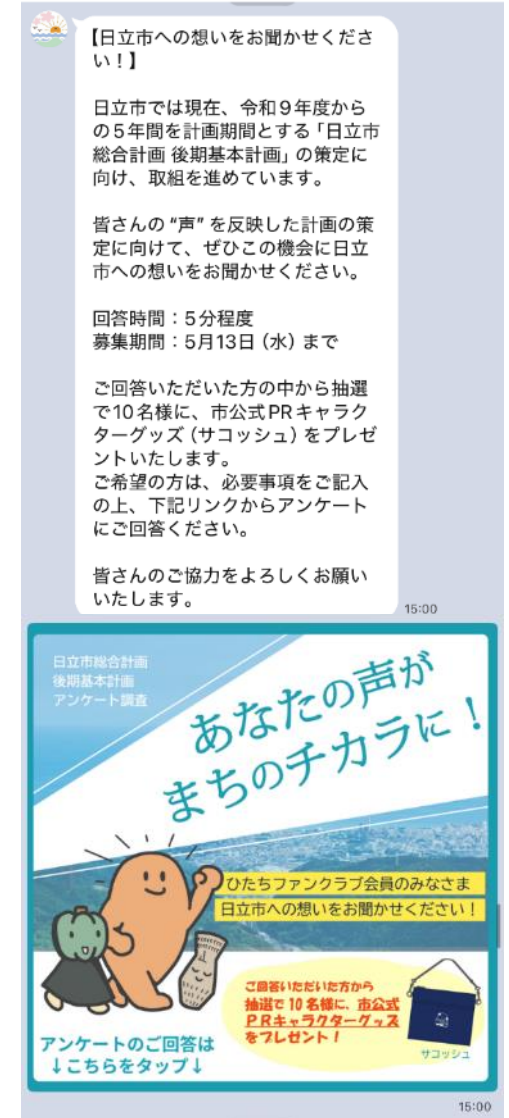
エ 分野横断的な視点

商店街、福祉、教育、農林水産、建設など分野は異なるものの、地域縮小への対応、次世代参画の促進、活動拠点・機材・制度の維持という意見は共通している。

3 ひたちファンクラブアンケートについて

(1) 調査概要

ア 対象者	ひたちファンクラブ会員
イ 調査期間	令和8年4月22日（水）～5月13日（水）
ウ 調査内容	【共通設問】 ・市への愛着 ・市に関する情報の収集方法 ・市の良い点、課題・改善が必要と感じるところ 【市内在住者】 ・今後の居住意向と理由 ・転出を検討する場合の理由 ・改善されればより住み続けたいと感じる点 ・市外の方に伝えたい日立市の魅力 【市外在住者】 ・日立市との関わり ・日立市を訪れる頻度と目的 ・日立市と関わりを持つ条件
エ 回答数	215件（市内在住者：166件、市外在住者：49件）



(ひたちファンクラブLINE)

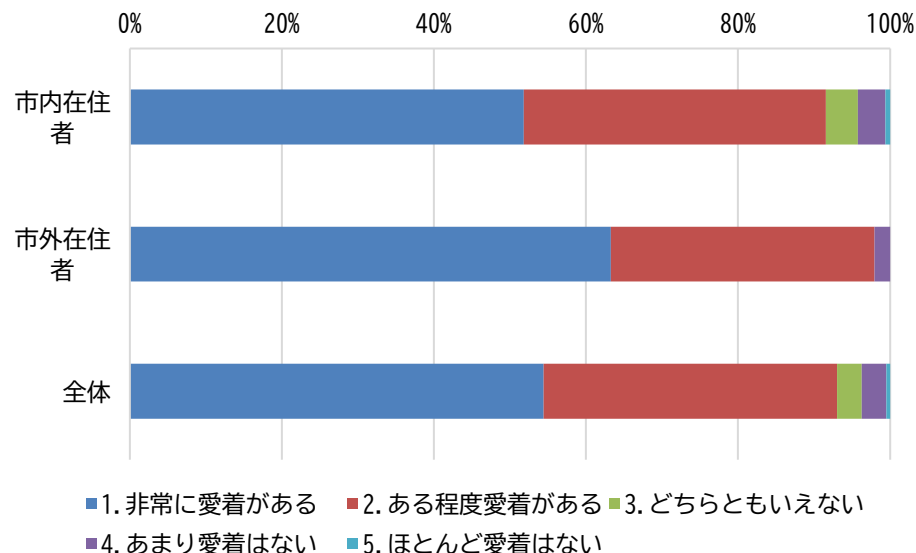
3 ひたちファンクラブアンケートについて

(2) 回答結果（市への愛着など）

【共通設問】
(n=215)

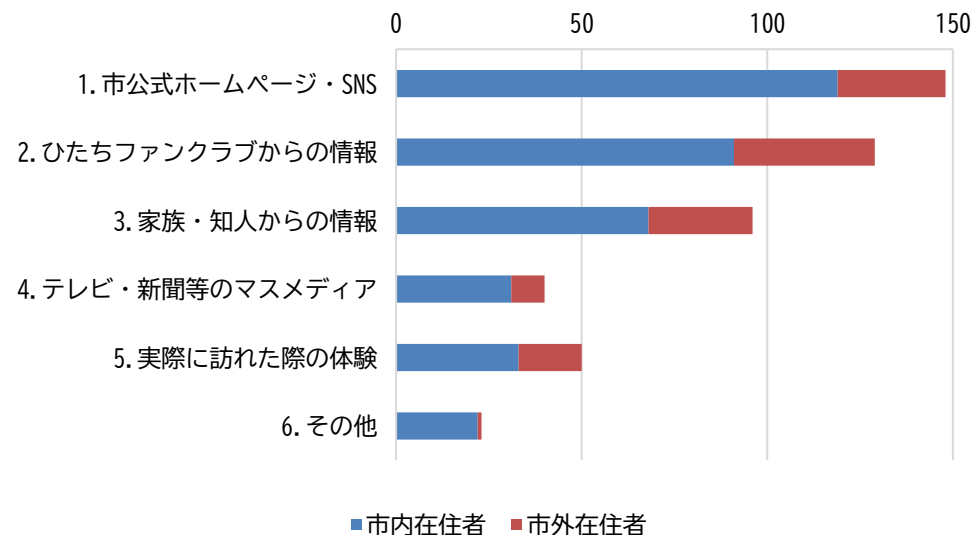
（市への愛着）

(n=215)



愛着がある層が9割以上。

（市に関する情報の入手元） ※複数回答



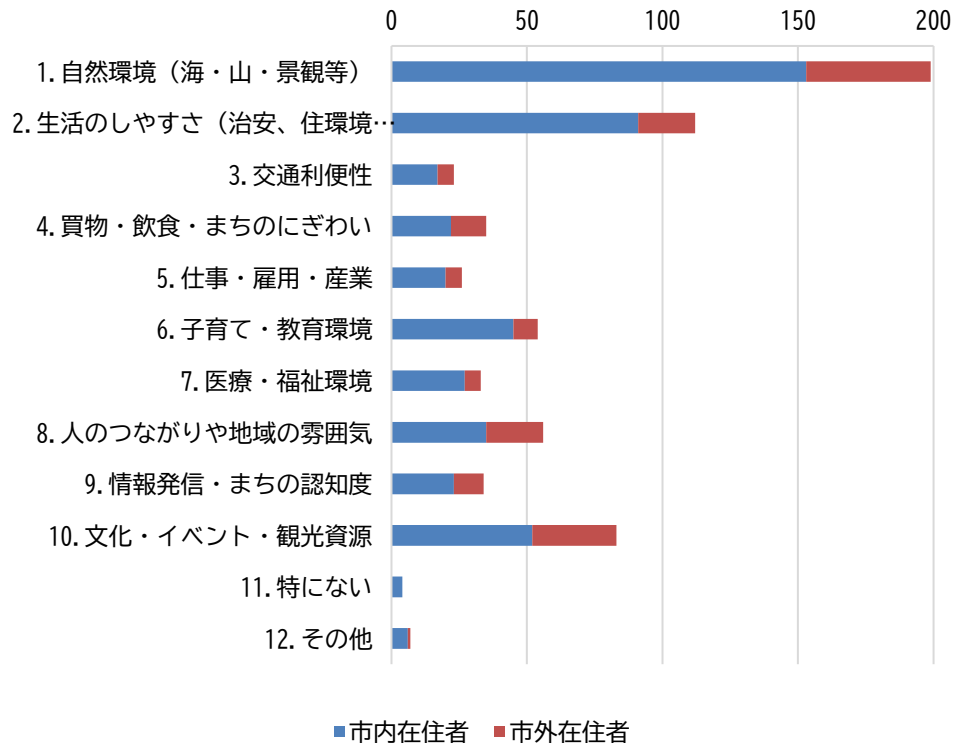
オンライン媒体からの情報入手に加え、
市内在住者は「広報ひたち」から情報入手。

3 ひたちファンクラブアンケートについて

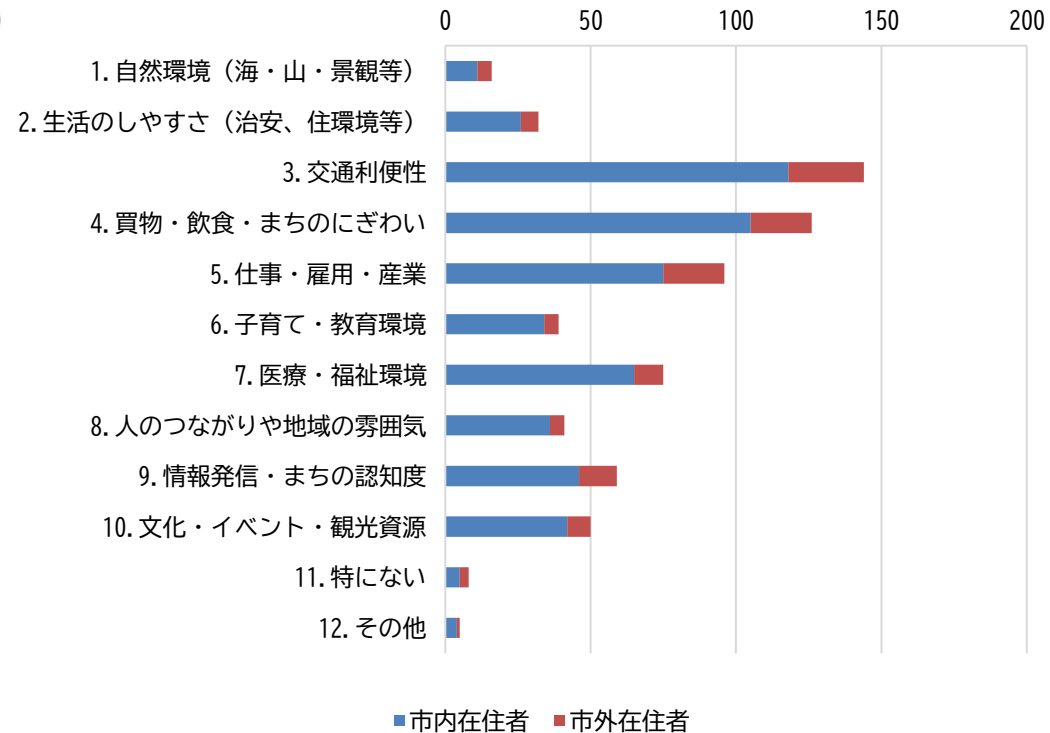
(2) 回答結果（市の良いと感じる点・課題と感じる点）

【共通設問】
(n=215)

（市の良いと感じる点）※複数回答



（課題・改善が必要と感じる点）※複数回答



自然環境、生活のしやすさの評価が高い。

交通利便性、商業関係が課題として挙げられる。

3 ひたちファンクラブアンケートについて

(2) 回答結果（市に今後期待すること）

【共通設問】

(n=215)

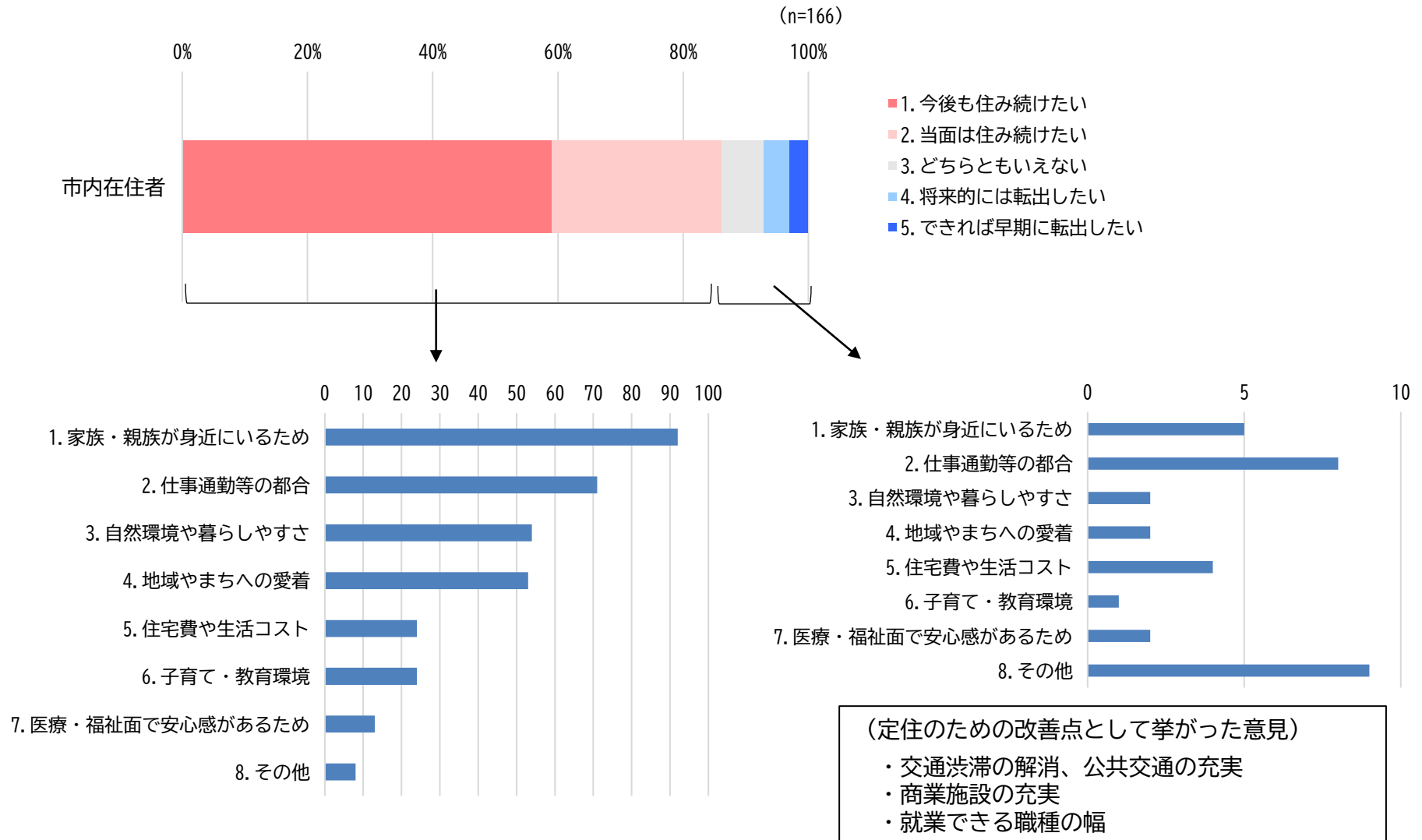
分野	主な意見・提案
ア 地域資源・観光振興	○海・山・動物園・御岩神社など、既存の地域資源を組み合わせ、体験や回遊につながる観光・交流の取組を進めてほしい。 ○日立風流物や日立製作所の歴史、出身著名人など、日立ならではの魅力を発信し、地域への誇りや知名度向上につなげてほしい。 ○海沿いの景観を活かし、散策やランニングを楽しめる環境整備、ランニングステーションなど交流・休憩拠点の充実を進めてほしい。
イ にぎわい・商業・若者定住	○駅周辺や商店街の空き店舗を活用し、若者や移住者が創業・挑戦できる環境を整えてほしい。 ○若者が市外へ流出しないよう、IT・AIなど新たな分野を含め、多様な働く場を増やしてほしい。 ○飲食店や娯楽施設、夜間も過ごせる場所などを充実させ、若者や市外から訪れる人が楽しめるまちにしてほしい。
ウ 子育て・生活環境	○子育て支援に加え、公園・遊び場・小児医療など、子どもが安心して過ごせる環境の充実。 ○学校や地域活動のあり方を見直し、子どもや若者が主体性を持って成長できる環境を整えてほしい。 ○移住者や転勤者、高齢者など多様な世代が地域でつながり、安心して暮らせる仕組みを充実してほしい。
エ 交通・都市基盤	○国道6号など主要道路の渋滞解消や道路環境の改善を進め、移動しやすいまちにしてほしい。 ○高齢者や車を使わない人も暮らしやすいよう、バス・巡回交通など公共交通を充実してほしい。 ○医療・買い物・生活サービスへのアクセスを改善し、将来にわたり安心して暮らせる環境を整えてほしい。

3 ひたちファンクラブアンケートについて

(2) 回答結果（今後の居住意向と理由）

【市内在住者向け設問】

(n=166)



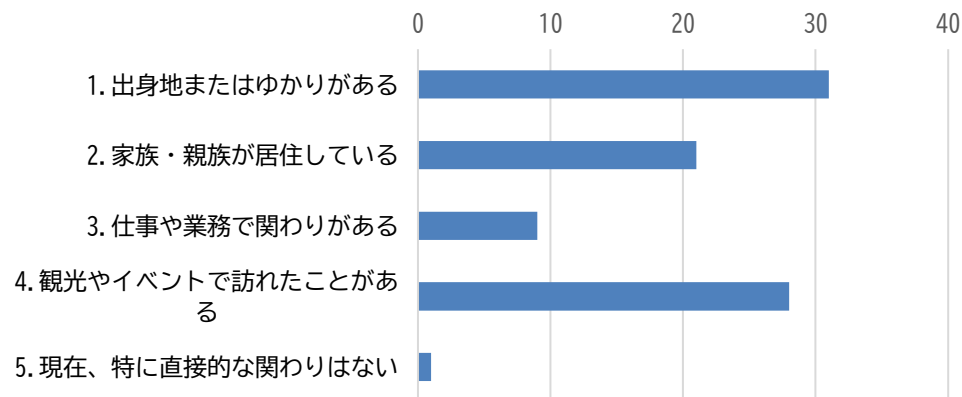
3 ひたちファンクラブアンケートについて

(2) 回答結果（市との関わりなど）

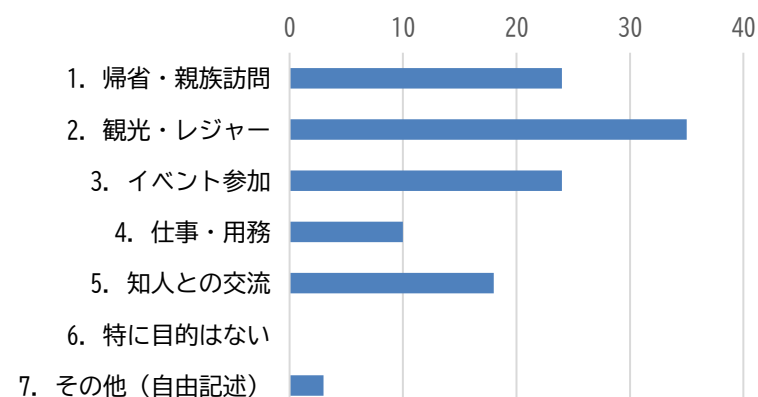
【市外在住者向け設問】

(n=49)

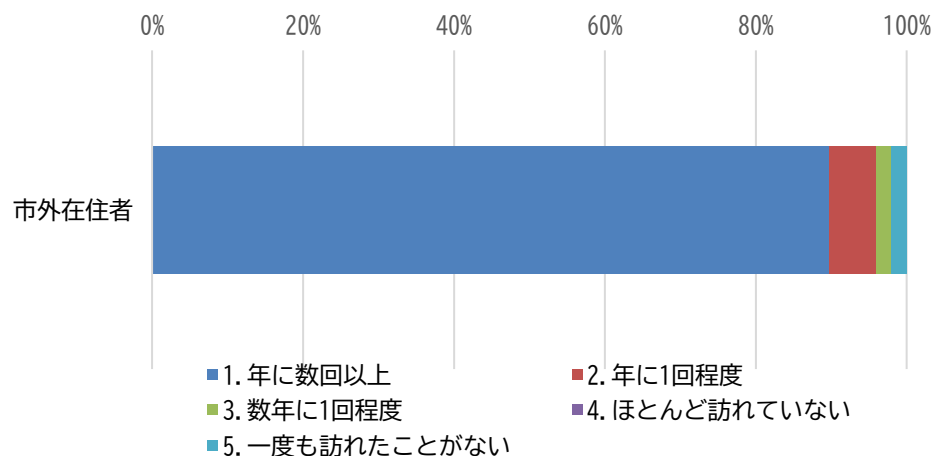
（市との関わり） ※複数回答



（市を訪れる主な目的） ※複数回答



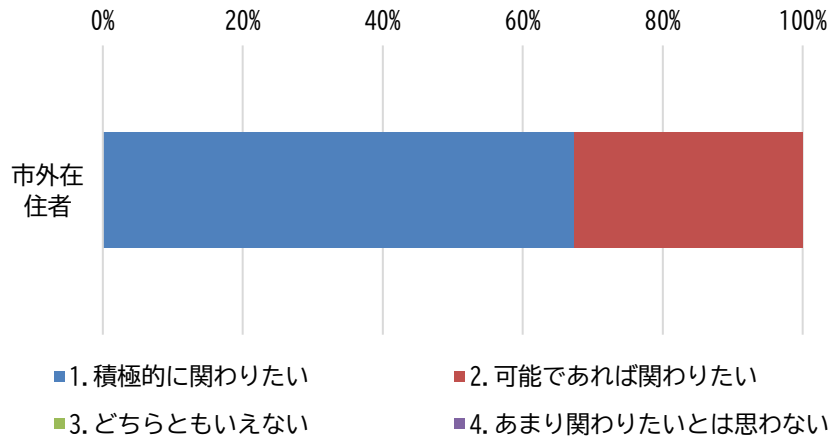
（市を訪れる頻度）



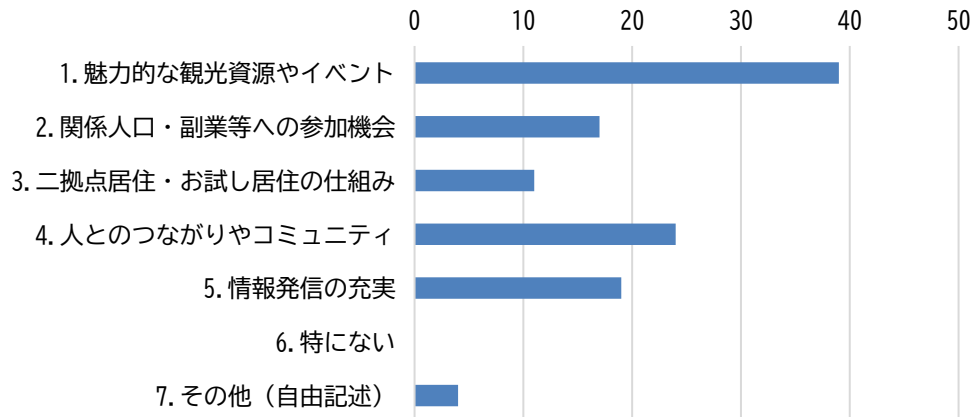
3 ひたちファンクラブアンケートについて

(2) 回答結果（住んでみたい・より関わりたいと思う点など）【市外在住者向け設問】 (n=49)

（市との関わりを増やしたいか）



（来訪したくなる、関わりたい条件）



（住んでみたい・より関わりたいと思う点）

分野	主な意見
雇用・移住環境	○資格や経験をいかせる仕事、安定した雇用機会の確保 ○住居費や住宅取得支援、移住に関する情報提供の充実 ○日立製作所以外の産業や多様な働き方の選択肢の拡大
交通・生活利便性	○国道6号など主要道路の渋滞解消、公共交通の利便性向上 ○駅周辺の活性化や徒歩圏で生活できる買い物環境の充実 ○都心方面へのアクセス向上による移住・交流のしやすさ
交流・つながり	○年齢を問わず参加できるイベントや地域活動の充実 ○移住者や市外在住者も関われるコミュニティの形成 ○市民同士が交流し、人とのつながりを感じられる場の創出
地域資源・魅力発信	○海・山など豊かな自然や観光資源をいかした体験・交流機会の創出 ○観光施設やまちなかをつなぐ回遊性の向上、日立ならではの魅力づくり ○イベントや物産、地域の魅力を市外へ届ける情報発信の強化

3 ひたちファンクラブアンケートについて

(3) まとめ

ア 「自然環境」「暮らしやすさ」「愛着の強さ」という明確な資産を持つ一方で、交通利便性、商業・にぎわい、雇用、医療や子育て環境のさらなる充実が今後の課題として認識されている。

イ 市内在住者では、定住意向は総じて高い一方、将来の生活利便性やまちの持続性に対する不安が転出検討理由として表れており、居住継続を後押しするには、交通改善や日常生活の魅力向上に加え、将来的な生活環境の維持・向上の見通しを分かりやすく示していくことが求められる。

ウ 市外在住者では、既に日立市と何らかの接点を持つ人が多く、関わりを増やしたい意向も高くなっている。観光・イベントを入口に、コミュニティ参加、仕事・副業、二拠点居住等へつなげることで、関係人口拡大の余地があると考えられる。

グループインタビューの結果

- 1 コミュニティグループインタビュー
- 2 子育て世代グループインタビュー
- 3 若者世代グループインタビュー
- 4 大学生グループインタビュー
- 5 高校生グループインタビュー



1 コミュニティグループインタビュー

(1) 調査概要

- ア 対 象 コミュニティ 23単会
- イ 参加者 96名
- ウ 実施期間 令和8年5月18日（月）～5月27日（水）
- エ 調査内容
- ・市全体、各地域の魅力や課題
 - ・まちづくりへの意見・提案



【実施日程】

NO.	開催日	コミュニティ単会の名称
1	5月18日 （月）	塙山学区住みよいまちをつくる会
2		大沼学区コミュニティ推進会
3		会瀬学区コミュニティ推進会
4		大久保学区コミュニティ推進会
5	5月19日 （火）	大みか学区コミュニティ推進会
6		水木学区コミュニティ推進会
7	5月20日 （水）	金沢学区コミュニティ推進会
8		滑川学区コミュニティ推進会
9		宮田学区コミュニティ推進会
10		河原子学区コミュニティ推進会
11	5月21日 （木）	十王地区コミュニティ推進会
12		中小路学区コミュニティ推進会
13		豊浦学区まちづくり推進会

NO.	開催日	コミュニティ単会の名称
14	5月25日 （月）	中里学区コミュニティ推進会
15		仲町学区コミュニティ推進会
16		諏訪学区コミュニティ推進会
17	5月26日 （火）	日高学区市民自治会
18		田尻学区コミュニティ推進会
19	5月27日 （水）	坂下地区コミュニティ推進会
20		助川学区コミュニティ推進会
21		久慈学区コミュニティ推進会
22		油縄子学区コミュニティ推進会
23		成沢学区コミュニティ推進会

(2) 実施結果（全体傾向）

ア 地域コミュニティの維持や担い手確保に関する課題が顕在化している。

- ・ 町内会加入率の低下や役員の高齢化による地域活動の担い手不足
- ・ 祭り、防災活動、見守り、要支援者の支援体制など地域を支える活動の継続への懸念

イ 日立市が持つ自然・観光資源を生かした魅力向上が求められている。

- ・ 海や山、日立駅周辺、かみね動物園など地域資源を活用した観光振興
- ・ 市民自身が地域の魅力を再認識し、情報発信につなげる取組の必要性

ウ 人口減少・若者流出への対応として、雇用や定住環境の充実が重視されている。

- ・ 若者が地元で働きたいと思える雇用機会や創業支援の充実
- ・ 空き家対策や住環境整備など、暮らし続けられる環境づくり

エ 高齢化社会に対応した移動手段や生活サービスの確保が課題となっている。

- ・ 免許返納後も生活できる公共交通や地域交通の充実
- ・ 買い物環境の維持や高齢者の生活支援への対応

オ 子育て・教育環境のさらなる充実が求められている。

- ・ 医療費助成や給食費無償化など子育て支援施策の継続・充実
- ・ 児童クラブ、学校教育、部活動など子育て世帯を支える環境整備

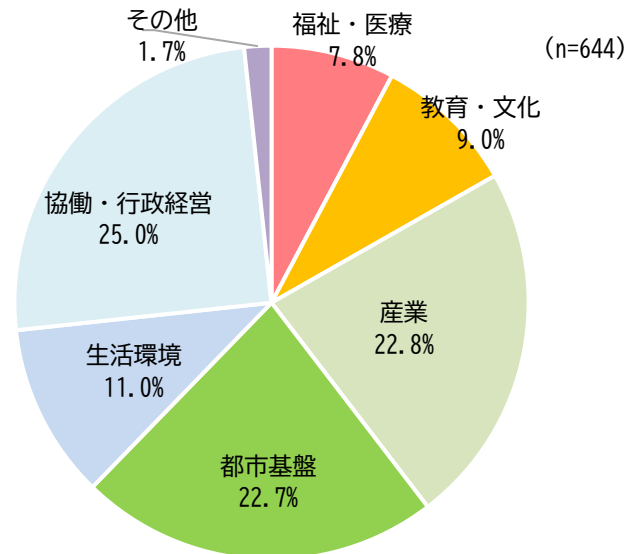
カ 都市基盤や交通環境の改善に対する意見がみられる。

- ・ 国道6号など主要道路の渋滞対策や道路整備の推進
- ・ 公共交通の利便性向上や駅周辺のにぎわいづくり

1 コミュニティグループインタビュー

(2) 実施結果（まちづくりに対する意見・提案の集計結果）

大綱	1 福祉・医療	2 教育・文化	3 産業	4 都市基盤	5 生活環境	6 協働・行政経営	その他	総数
件数	50	58	147	146	71	161	11	644
割合	7.8%	9.0%	22.8%	22.7%	11.0%	25.0%	1.7%	100%



1 コミュニティグループインタビュー

(2) 実施結果（大綱施策別 主な意見）

大綱	施策	主な意見・提案
大綱1 福祉・医療	子ども福祉	- 給食費無償化や医療費助成などの子育て支援は評価でき、子育て世代が安心して暮らせる環境づくりを継続してほしい。 - 児童クラブの利用時間延長など共働き世帯への支援が必要である。
	高齢者福祉	- 高齢者が免許返納後も安心して暮らせるよう、買い物や通院を支える移動支援の充実が必要である。 - 配食サービスや訪問支援などは有効であり、地域と行政が連携した見守り体制を整えてほしい。
	地域福祉・地域共生	- 町内会加入率の低下や担い手不足により、見守りや助け合い機能が弱まっており、孤立世帯や一人暮らし高齢者への対応が困難になっている。 - 行政や法人において福祉施設の効率的な運営が求められる中、高齢者や障害者が安心して利用できるよう、機能を維持・充実させながら効率的な施設運営を進めてほしい。
	地域医療体制等	- 高齢化の進行に伴い、今後の医療機関の維持への不安がある。 - 産婦人科の誘致を進めてほしい。
	健康づくり	- 公園への健康器具の設置をはじめ、市民の健康増進策の検討が必要である。 - AIやデジタル技術を活用した健康管理や見守り体制の充実が必要である。
大綱2 教育・文化	学校教育	- 小・中学校の統合が進められているが、安全な登下校に向けた配慮が必要である。 - ランドセル配布や給食費支援だけではなく、特色ある教育や教育水準の向上によって、子育て世帯から選ばれるまちづくりが必要である。
	生涯学習	- 地域活動への若い世代の参加が減少しており、世代を超えた交流機会づくりが必要だと感じる。 - 生涯学習や社会教育事業は地域活性化につながる一方、コミュニティ単独での継続には限界があるため、人材確保や研修機会の提供を含めた市の支援が必要である。
	文化・芸術	- 神峰神社大祭礼や風流物は、全国的に見ても価値の高い文化資源であり、積極的にPRしてほしい。 - 文化施設の魅力向上を図り、市民が地域文化に触れる機会を充実してほしい。
	スポーツ	- 新市民球場とアリーナ等での行事が重なる際は、交通渋滞が懸念される。 - スポーツ施設を活用し、市民交流や地域活性化につながる取組を進めることが重要である。

1 コミュニティグループインタビュー

(2) 実施結果（大綱施策別 主な意見）

大綱	施策	主な意見・提案
大綱3 産業	工業	○ 製造業のまちとしてのポテンシャルを生かすため、市内中小企業の優れた技術をより活用し、産業支援センターの機能強化やPRコーディネーターによる効果的な発信を推進することが望まれる。
	商業	○ スーパー閉店などにより買い物環境が悪化しているため、日常生活を支える商業機能の維持や移動販売等の充実が求められる。 ○ 日立駅前や中心市街地ではにぎわいが不足しているため、飲食店や交流空間など人が集まる場所を増やしてほしい。
	農・林業	○ 農業従事者の高齢化や後継者不足に対応するため、農地活用や新たな担い手確保が必要である。 ○ 茂宮かぼちゃ等の地域ブランド農産物を活用した地域振興を進める必要がある。
	産業立地	○ 若い世代の定住と人口増加につなげるため、企業誘致や新たな雇用の場の創出が必要である。
	観光	○ 日立駅舎や海岸線、山など日立市独自の地域資源を生かし、魅力発信を強化することが重要である。 ○ 観光資源を点で終わらず、周遊や滞在につながる観光施策を充実してほしい。
	創業・雇用・労働	○ 若者が地元で働き続けたいと思える雇用環境づくりや、Uターンにつながる支援が求められる。 ○ 企業誘致や創業支援、中小企業との雇用マッチング強化を進め、Uターン就職や若年層の定着につなげる必要がある。
大綱4 都市基盤	市街地整備	○ 日立駅前や中心市街地では空き店舗の増加やにぎわい不足が見られるため、人が集まり滞在できる空間づくりや店舗誘致を進めてほしい。 ○ 空き家・遊休地の増加や団地の高齢化を踏まえ、生活に必要な機能を維持しながら、持続可能なまちづくりを進めることが求められる。
	道路交通体系	○ 国道6号や国道245号など主要道路の渋滞解消に向け、バイパス整備や道路改良を進める必要がある。 ○ 幹線道路の混雑により生活道路へ交通が流入しているため、安全対策を充実してほしい。
	公共交通体系	○ 高齢者が免許返納後も安心して生活できるよう、公共交通の確保が必要である。 ○ バス路線やデマンド交通など、地域の実情に応じた移動手段を充実してほしい。
	公園緑地・さくら	○ 遊具や休憩スペースを充実させて、子どもや高齢者が利用しやすい公園づくりを進めてほしい。 ○ 身近な公園や自然環境を生かし、憩いや交流の場として魅力を高めてほしい。
	住環境・定住	○ 空き家や空き地の増加が景観や地域活力の低下につながるため、適切な管理と利活用が必要である。 ○ 若い世代の定住を促すため、住宅支援や子育て世代が暮らしやすい環境整備が求められる。

1 コミュニティグループインタビュー

(2) 実施結果（大綱施策別 主な意見）

大綱	施策	主な意見・提案
大綱5 生活環境	自然環境の保全と創造	○ 温暖化が進む中で、比較的涼しく過ごしやすい気候やクールスポットが多い環境を日立市の強みとして、地域資源の魅力発信に生かしてほしい。
	ごみ・資源	○ 生ごみの資源化など循環型社会に向けた取組を推進するとよい。
	消防・救急	○ 緊急通報システムは命を守る重要な仕組みであるため、使用している通信会社以外の回線も選択できるよう、利用環境を整えてほしい。
	防災・減災	○ 津波や大雨などの災害に備え、避難所機能の充実や地域防災体制の強化が必要である。 ○ 地域の防災活動を継続するため、住民・学校・行政が協力できる仕組みを整えることが重要である。
	防犯・交通安全	○ 通学路の安全確保に向け、防犯灯、防犯カメラ、横断歩道表示などの整備を進める必要がある。 ○ 高齢化や担い手不足の中でも、地域住民、学校、行政が連携し、防犯活動や見守り活動を継続できる体制づくりが必要である。
大綱6 協働・行政経営	コミュニティ活動	○ 便利さを重視する一方で、地域で支え合う共助意識が薄れつつある。 ○ 町内会加入率の低下や役員の高齢化・固定化により、地域活動の担い手不足が深刻化し、解散する自治会も増えているため、持続可能な運営体制の再構築が必要である。
	市民の多様な活動	○ 若年層や現役世代が地域活動に参加しやすい仕組みづくりが必要である。
	産学官連携	○ 行政だけでなく、企業や大学等と連携しながらまちづくりを進める必要がある。
	男女共同参画・若者応援・多文化共生	○ 若者の交流や活動の場が不足しているため、若い世代が地域に関わり続けられる居場所づくりや支援の充実が求められる。
	広聴広報・プロモーション	○ 市の施策や地域の魅力を分かりやすく伝えるため、SNSなどを活用した情報発信の強化が必要である。 ○ 市の魅力や住みやすさについて積極的な情報発信が望まれる。
	デジタル化・行財政運営	○ 高齢者向けスマートフォン教室などのデジタル活用支援を継続するとともに、紙とデジタルを選択できる分かりやすい行政サービスを進めてほしい。 ○ 人口減少と財政制約を踏まえ、公共施設の再編や未利用施設の有効活用、IT・AIを活用した効率的な行財政運営を進める必要がある。

(1) 調査概要

- ア 対象 5名（子育て情報編集委員会委員）
- イ 調査日 令和8年5月26日（火）
- ウ 調査内容
 - ・ 日立市の魅力や課題
 - ・ 子育て支援施策について
 - ・ 居住・定住において重視する点
 - ・ 若者世代の居住・定住に必要なもの 等



(2) 実施結果（全体傾向）

- ア 海や山などの豊かな自然環境に加え、ハレニコやかみね動物園、子育て支援策などの日立市の強みは高く評価され、「子育てしやすいまち」として認知されているものの、さらなる魅力発信の強化が求められている。
- イ 通学路の安全対策や自転車利用環境の整備、大型公園やインクルーシブ遊具の充実、授乳室・おむつ替えスペースの整備など、安心して子育てできる生活環境の向上が求められている。
- ウ 第2子保育料無償化や一時預かり制度などの子育て支援施策は評価されている一方、利用しやすい制度運用や在宅育児世帯への支援など、多様な子育てスタイルに対応した支援の充実が必要とされている。
- エ 保育士や教員の人材確保・負担軽減を進めるとともに、特色ある学校づくりや質の高い教育環境の整備を通じて、子育て世代の定住促進や将来的なUターンにつながる環境づくりが求められている。
- オ 都市部と比較した住宅取得のしやすさや日立製作所、JX金属を始めとする大手企業の立地といった地域の強みを生かしながら、働きやすい職場環境の整備や地域企業の魅力発信を進め、若者の定着や移住促進につなげることが求められている。

(2) 実施結果（主な意見）

項目	主な意見
ア 日立市の魅力や課題	・ 海や山などの自然環境やハレニコなどの公共施設が充実している点は日立市の魅力だと思う一方で、施設を維持していくため市外利用者の料金設定なども検討してほしい。 ・ 小学校の統廃合に伴う通学路の安全対策を示してほしい。ガードレールの設置や自転車ルール変更に伴う道路の安全性確保など子どもが安心して暮らせる環境を整えてほしい。 ・ 休日は市外の大型施設へ出かけることが多いため、年齢別の遊具や水遊び場などを備えた駐車場や利便施設もある大型公園を市内に整備してほしい。 ・ 子ども連れで安心して利用できる清潔な屋内施設や授乳室などを整備するとともに、障害のある子どもも楽しめる遊具を導入し誰もが過ごしやすい場所にしてほしい。
イ 子育て支援施策	・ マル福制度などの子育て支援は充実していると思う一方で、保育園の布団持ち帰りの負担軽減や第2子保育料無償化の年齢制限見直しなど実態に合った改善を進めてほしい。 ・ 一時預かりや通園制度は予約が取りづらく朝早く並ぶ負担もあるため、オンライン予約や抽選制の導入、民間施設への支援拡充を進めてほしい。 ・ 共働き世帯だけでなく在宅で育児をする家庭も含め、それぞれの子育てスタイルに合わせた手当や家事支援などの仕組みを整えてほしい。 ・ 保育士や学校教員の人手不足や業務負担を改善するため、待遇改善や外部委託などにより子どもと向き合える環境を整えてほしい。 ・ 教育のデジタル化を進める際は市独自の教育方針を検討するとともに、小児オンライン診療も利用しやすい体制を整えてほしい。

(2) 実施結果（主な意見）

項目	主な意見
ウ 居住・定住	・ 保育園に入りづらい地域があることで市外転出につながるため、市内全域で保育枠を確保し安心して暮らせる環境にしてほしい。 ・ 働く親への支援だけでなく、家庭で子育てをしたい親も安心できる居場所や支援の仕組みを充実してほしい。 ・ 日立市で子どもを育てたいと思えるよう、公立学校の特色化や質の高い教育を進め将来のUターンにもつながる環境をつくってほしい。 ・ 市外からの転入を促すため、海の見える住宅などを活用した生活体験型のお試し移住の取組を充実してほしい。 ・ 住宅の安さや企業の強みを活かしながら、教育や医療、買い物環境など暮らし全体の質を高めて定住につなげてほしい。
エ 若者世代の居住・定住	・ 地域を代表する大企業の存在は若者の地元就職やUターンにつながる強みだと思う。 ・ 若者や女性が働き続けられるよう、女性用トイレや更衣室、休憩室など職場環境をより良いものに改善してほしい。 ・ 地元企業の魅力を知る機会を増やすため、中高生の段階から企業見学や出張授業を行い市内就職につなげてほしい。 ・ 首都圏から若者を呼び込むため、給与面だけでなく家賃の安さや広い住宅を持てる暮らしの魅力を発信してほしい。 ・ 自然環境など日立市ならではの暮らしやすさを企業と行政が連携して発信し、将来の家族形成も見据えた若者定着を進めてほしい。

3 若者世代グループインタビュー

(1) 調査概要

- ア 対象 10名（ひたち若者かがやき会議メンバー）
- イ 調査期間 令和8年5月23日（土）
- ウ 調査内容
- ・ 日立市の魅力や課題
 - ・ 居住・定住について
 - ・ 市や地域との関わり方
 - ・ 就職・転職について
 - ・ 女性・若者の定住について 等



(2) 実施結果（全体傾向）

- ア 海や山などの豊かな自然環境や、家族・地域とのつながりを感じられる暮らしやすさは、日立市の魅力として評価されており、都市部にはない「安心して暮らせるまち」としての価値発信が求められている。
- イ 若者が休日に過ごせる商業施設や交流の場、駅前のにぎわいなどについては不足を感じる声があり、若者が「行きたい」「集まりたい」と思える居場所づくりや地域拠点の形成が求められている。
- ウ 若者の居住地選択は、就職先や住宅価格だけではなく、家族との距離、子育て環境、地域とのつながりなど「どのような暮らしができるか」が重視されており、将来的なＵターンや定住につながる生活環境の魅力向上が必要とされている。
- エ 地域との関わりについては、自治会等への加入など制度的な参加だけではなく、友人や知人とのつながり、イベント参加などを通じた緩やかな関係性が地域への愛着形成につながっており、若いうちから地域と関われる機会の創出が求められている。
- オ 若者や女性の定着には、製造業を中心とした産業基盤という強みを活かしながら、女性が働きやすい職種や柔軟な働き方の選択肢を広げるとともに、地域とのつながりや安心感を育む取組を進めるなど、「ここで暮らしたいと思えるまちづくり」が求められている。

3 若者世代グループインタビュー

(2) 実施結果（主な意見）

項目	主な意見
ア 日立市の魅力や課題	・ 海や山などの自然環境が身近にあり、都会過ぎず田舎過ぎない規模感で落ち着いて暮らせるところは日立市の魅力だと思う。 ・ 家族や親族との距離が近く、子育てや将来の生活を考えたときに頼れる人がいる安心感は日立市の大きな強みだと思う。 ・ 若者向けの娯楽施設や交流の場が少なく、休日には市外へ出かけることも多いため、若者が集まりたいと思える場所をつくってほしい。
イ 地域との関わり方	・ 市外へ出た後も家族や友人とのつながりを通じて日立市との関わりを持ち続けたいと思う。 ・ 地域への愛着を持つには、制度的な参加よりも人とのつながりが重要で、知っている人や仲間がいることが戻りたい気持ちにつながると思う。 ・ 自治会などへの参加だけでなく、イベントや知人を通じた気軽な関わり方でも地域とつながれる環境があるとよいと思う。
ウ 就職・働き方	・ 仕事を選ぶ際は勤務地だけではなく、将来的にどこで暮らしたいかも考えて就職先を選んでいる。 ・ 一つの会社で働き続ける考え方だけでなく、転職やキャリアアップを含めた柔軟な働き方が必要だと思う。 ・ 女性のキャリア形成を考えると、市外の方が職種や働き方の選択肢が多いと感じるため、市内でも多様な仕事を増やしてほしい。 ・ 仕事だけでなく家庭や趣味、地域との関係など生活全体のバランスを大切にできる働き方が必要だと思う。

3 若者世代グループインタビュー

(2) 実施結果（主な意見）

項目	主な意見
エ 居住・ 定住	・ 保育園に入りづらい地域があることで市外転出につながるため、市内全域で保育枠を確保し安心して暮らせる環境にしてほしい。 ・ 働く親への支援だけでなく、家庭で子育てをしたい親も安心できる居場所や支援の仕組みを充実してほしい。 ・ 日立市で子どもを育てたいと思えるよう、公立学校の特色化や質の高い教育を進め将来のUターンにもつながる環境をつくってほしい。 ・ 市外からの転入を促すため、海に見える住宅などを活用した生活体験型のお試し移住の取組を充実してほしい。 ・ 住宅の安さや企業の強みを活かしながら、教育や医療、買い物環境など暮らし全体の質を高めて定住につなげてほしい。
オ 女性・ 若者の定住	・ 若い女性が地域に残るためには、働きたいと思える仕事や柔軟な働き方の選択肢を増やすことが必要だと思う。 ・ 子育てを考えた場合、家族や親族が近くにいる環境は非常に心強く、日立市はその点で暮らしやすいまちだと思っている。特に共働き世帯では、親族のサポートを受けられる安心感は大きい。 ・ 男女ともに固定された役割に縛られず、それぞれが希望する働き方や暮らし方を選べる環境にしてほしい。 ・ 若者定住を進めるには仕事や住宅だけではなく、ここで暮らしたいと思える人とのつながりや安心感を育てることも大切だと思う。

4 大学生グループインタビュー

(1) 調査概要

ア 対象	茨城大学工学部	7名
	茨城キリスト教大学	9名
イ 調査日	茨城大学工学部	令和8年5月19日(火)
	茨城キリスト教大学	令和8年5月29日(金)
ウ 調査内容	・日立市の魅力や課題 ・就職について ・住みたいまちについて ・まちづくりに対する意見・提案 等	



(茨城大学工学部)



(茨城キリスト教大学)

(2) 実施結果（全体傾向）

- ア 日立市については、海や山などの自然環境、海沿いの景観、駅に近い大学の立地など、地方都市としての暮らしやすさを評価する意見が多く、「自然環境と生活利便性を兼ね備えたまち」としての魅力が感じられている。
- イ 一方で、将来的な居住地選択では、日立市への愛着や実家との距離だけでなく、希望する仕事・研究分野をいかにせる環境、給与や福利厚生などの就職条件を重視する傾向が見られ、若者の定着には地域内での多様な働く場の確保が求められている。
- ウ 公共交通や移動環境については、坂の多い地形、車を前提とした生活環境、バスの利便性不足、朝夕の交通渋滞などが課題として挙げられ、学生や若者が安心して生活できる移動手段の確保が必要とされている。
- エ 商業・娯楽面では、休日の買い物や友人との交流のために水戸市やひたちなか市へ出かける学生が多く、市内で若者が過ごせる場所や気軽に集まれる空間が不足しているとの意見が見られた。
- オ 日立駅周辺やシーマークスクエアなどの拠点については、海沿いという立地や地域資源を活かしながら、若者の日常利用だけでなく、市外からも訪れたいと思われる特色ある魅力づくりが期待されている。
- カ 「日立製作所のまち」「工業都市」というイメージが強い一方で、海や山などの自然環境、イベント、地域資源などの魅力が十分に認識されていないとの意見もあり、若者や市外在住者に向けた日立市らしさの発信強化が求められている。

4 大学生グループインタビュー

(2) 実施結果（主な意見）

項目	主な意見
ア 住みやすさ	・車を持たない学生にとっては坂道や公共交通の少なさが負担となるため、徒歩や公共交通でも生活しやすい環境を整えてほしい。 ・国道6号や大学周辺では朝夕の渋滞が多く、通学や日常の移動に時間がかかるため、企業などとも連携した交通対策を進めてほしい。
イ 就職	・理系分野では研究内容や専門性を活かせる企業・研究環境を重視するため、就職を機に市外へ出ることも選択肢になると思う。 ・給与や福利厚生だけでなく、自分のやりたい仕事に挑戦できる環境があるかどうか就職先を選ぶ上で重要だと思う。
ウ 居住・定住	・居住地を選ぶ際は、実家との距離、生活費の負担、日常生活の便利さなどを総合的に考えており、地元で暮らす安心感も大きな要素だと思う。 ・若いうちは市外で経験を積むことも選択肢になるが、将来的に戻りたいと思えるような仕事や暮らしの環境が日立市にあることが重要だと思う。 ・スーパーやドラッグストア、病院など、日常生活に必要な施設が身近にそろっている環境は重要だと感じている。生活利便性が高いことは、将来的に住み続けるかどうかを考える上でも大きな要素だと思っている。

4 大学生グループインタビュー

(2) 実施結果（主な意見）

項目	主な意見
エ まちづくり に対する意見・ 提案	・ 高校生や大学生が友人と気軽に過ごせる場所が少なく、買い物や遊びのために市外へ出る機会が多いため若者向けの施設を充実してほしい。 ・ アミューズメント施設やカフェなど、学校帰りや休日に立ち寄れる日常的な交流場所があると若者が集まりやすいと思う。 ・ シーマークスクエアなどの施設は海沿いの立地を活かし、映画館や飲食など市外との差別化につながる機能を充実してほしい。 ・ 日立市は工業都市の印象が強いため、自然やイベントなど若者が魅力を感じる地域資源をもっと発信してほしい。 ・ 駅前については、現在の生活スタイルに合わせた駐車場や商業機能のあり方を見直し、若者が行きたいと思える空間にしてほしい。 ・ 人口減少を見据え、交通や都市機能を含めたまち全体の構造を長期的に考えていく必要があると思う。

5 高校生グループインタビュー

(1) 調査概要

ア 対象	日立第一高等学校	9名
	多賀高等学校	12名
	日立商業高等学校	10名
イ 調査日	日立第一高等学校	令和8年6月11日(木)
	多賀高等学校	令和8年6月10日(水)
	日立商業高等学校	令和8年6月16日(火)
ウ 調査内容	・日立市の魅力や課題 ・進学・就職について ・住みたいまちについて ・まちづくりに対する意見・提案 等	



(日立第一高等学校)



(多賀高等学校)



(日立商業高等学校)

(2) 実施結果（全体傾向）

ア 高校生全体として、海と山が近い自然環境、落ち着いて暮らせる生活環境、治安の良さなど、**日立市の暮らしやすさを評価する意見が多く見られた**。特に、将来子育てをする場としては安心感があるとの見方があった。

イ 一方で、住みやすさの向上に向けては、公共交通機関の利便性向上を求める声が多く、バスや電車の本数、移動のしやすさ、駅周辺の使いやすさなどが課題として挙げられた。また、**若者向けの娯楽施設や商業施設の不足、商店街や駅前のにぎわい不足**を指摘する意見も見られ、放課後や休日に高校生が過ごせる場所の充実が求められていた。

ウ 今後の日立市での居住意向や希望する進学・就職先については、学校ごとに主となる意見が異なった。進学や就職を機に市外・東京圏に出て、多様な価値観や選択肢に触れたいという意見や、**できれば住み続けたいという意見がある一方で、進路によっては市外へ出る可能性もあるという現実的な見方**も多かった。

エ 高校生全体としては日立市への愛着や評価が共有されている一方で、進路選択の方向性や将来的な定住意向には違いがあり、**「若いうちは外で経験を積みたい層」と「地元や県内に軸足を置きたい層」**の両方が見られた。また、将来的には結婚・子育ての時期に地元へ戻ることも選択肢として考える意見もあり、Uターンの可能性もうかがえた。

(2) 実施結果（学校ごとの傾向）

学校	居留意向	希望する進学・就職先	主な改善要望	主な特徴
日立第一高等学校	日立市への愛着はあるが、若いうちは市外で経験を積みたいという意見が比較的多い。将来的なＵターンも選択肢。	東京圏など市外志向が比較的強い。大学・企業の選択肢、多様な価値観に触れられる環境を重視。	公共交通の利便性向上、商店街活性化、空き店舗対策、企業誘致、住宅環境整備など。	外部での挑戦志向が比較的強く、まちの活性化を広い視点で捉える傾向。
多賀高等学校	日立市に住み続けたい、または地元に近い環境で生活したいという意見が比較的多い。	茨城県内での進学・就職志向が比較的強い。	道路整備、渋滞対策、歩道、防犯、避難所環境など生活インフラの改善。	地域密着志向が比較的強く、安全・安心や地域を支える仕事への関心が高い。
日立商業高等学校	できれば住み続けたいという意見が比較的多いが、進路次第で転出の可能性もある。	地元志向もあるが、進学・就職先によって柔軟に判断する傾向。	大型商業施設、雑貨店、若者向け施設、SNS等による魅力発信強化。	暮らしの利便性や買い物環境、若者に届くPRへの関心が高い。